

ダウン症乳幼児の超早期療育の効果

筑波大学心身障害学系

長畑正道 池田由紀江
高橋純 岡崎裕子
柴崎正行

目的

精神発達遅滞児を対象にした0歳からの超早期療育の試みが、最近大きな注目を集めつつある。超早期療育には、医学・心理学など学際的アプローチによる体系的プログラムが不可欠であるが、その方法、内容とも未だ確立されていない。

また、超早期からの指導が非常に重要であることは経験的に述べられているが、実際にその効果を検討した研究は、安藤(1979)¹⁾にみられる以外、ほとんど明らかにされていない。

本研究では、0歳からのダウン症乳幼児を対象にした超早期療育プログラムを試案し、次に、そのプログラム実施による効果を検討(中間報告)することを目的とする。

方法

1. 対象児

対象は男児28名、女児19名、計47名のダウン症児であり、その核型は、Translocation(D/G)タイプの2名を除いて、他はすべてRegular 21 Trisomyタイプである。

Table 1は、対象児が初めて指導をうけた時点の月齢と、その群の平均指導期間を示したものである。

Table 1 指導開始時の月齢と平均指導期間

月 齢	人数	平均指導期間
1～6カ月	12	12.1月
7～12カ月	11	12.4
13～18カ月	11	10.9
19～24カ月	13	8.3
計	47	(1982年2月現在)

対象児にみられる合併症は、Table 2に示すとおりである。このうち、先天性心臓疾患と巨大結腸とを重複して有する者が1名いる。

Table 2 対象児全47名中にみられる合併症

合併症	人数
先天性心臓疾患	11
点頭てんかん	1
鎖 肛	1
巨大結腸	1

2. 指導期間

指導期間は、昭和55年6月から57年2月までである。Table 3に示すとおり、対象児を指導期間で分類すると、1年以上の指導をうけた対象児は、全体の約半数となっている。

Table 3 指導をうけた期間

期 間	人数
～6カ月	13
7～12カ月	11
13～18カ月	20
19～21カ月	3
計	47

(1982年現在)

3. 指導形態

指導は、通所・家庭訪問・通信の3形態である。原則的には、月1回の通所指導を行うが、生後半年未満の対象児には、健康管理を考慮し、家庭訪問指導を行ったのち通所指導に移行させる。また、待機者は通信指導ののち通所指導に移行させる。

4. 指導プログラム

1) 親に対する指導プログラム

親に対する指導プログラムは、①ダウン症に関する正しい理解②教育、家庭、福祉につ

いての知識③ダウン症児の養育、などが主な内容である。

2) 超早期療育のプログラム

ワシントン大学²⁾、オレゴン大学³⁾、マクアリアー大学⁴⁾、ミシガン大学⁵⁾、それぞれのプログラムを参考に、粗大運動、知覚・巧緻運動、言語、社会性・身辺自立の4領域で作成した(資料参照)。対象児は、本プログラムにより該当箇所の練習シートを手渡され、親が達成状況などを記入して1カ月後に持参する。

3) 評価

指導開始時および6カ月ごとに次の評価を実施する。①古賀式MCCベビーテスト②津守式乳幼児精神発達質問紙③Bayley Scales for Infant Development (Motor Scale) ④栄養および生活時間調査⑤家庭環境(母子相互関係中心)

結果と考察

1. DQの変化

Fig 1 訓練後の最終評価時のDQ

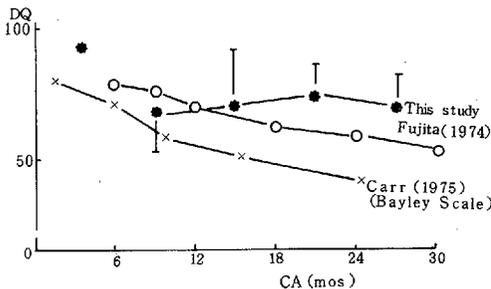


Fig 1は、訓練後の最終評価時に、古賀式MCCベビーテストで算出したDQを示したものである。最終評価時が6カ月未満の対象児は1名のみであったため、図中にはプロットで記した。訓練をうけていないダウン症児のDQと比較するため、藤田(1974)⁶⁾とCarr(1975)⁷⁾によるDQを図示した。本研究では平均70前後のDQを示しており、比較的良好状態にあるといえる。藤田、Carr両研究のD

Qで明らかのように、ダウン症児は月齢が大きくなるにつれDQが下降する傾向が認められるが、本研究では類似した下降傾向はみられない点で、超早期療育の効果を示唆している。しかし、2歳頃からは本研究でもDQ下降の気配をみせ始めている。これは、感覚運動段階での発達援助は比較的スムーズに行われているが、ことばの獲得段階からつまづきが大きくなることを暗示しているといえよう。

DQ変化の点から本プログラムの効果を分析したが、次に領域ごとの発達を分析する。

2. 指導開始時期による領域別の分析

Table 4

指導開始月齢別にみる発達状況(粗大運動)

項目名	月齢 ～6カ月	7～12カ月	13～18カ月	19～24カ月	**
くびのすわり	4.9	7.0	*6.5	*6.1	(3.5)
ねがえり	9.8	9.8	—	—	(5.8)
おすわり	9.4	10.9	12.7	9.8	(6.8)
はう	13.3	15.4	16.2	22.3	—
つかまり立ち	13.4	16.8	14.0	18.9	(8.7)
つたい歩き	17.5	18.7	20.8	20.0	(10.2)
立つ	18.6	19.7	21.2	21.5	(12.5)
片手で支えられて歩く	16.0	18.2	13.0	23.5	—
歩く	—	—	24.3	24.4	(13.3)

(1982年2月現在)

*印は、母親による報告

** ()内の数字は、上田(1978)による正常児の月齢

Table 4は、粗大運動領域における各項目の平均達成月齢を指導開始時期別に示したものである。全体的に、早く指導を始める程、達成月齢も早い傾向がみられる。

Table 5

指導開始月齢別にみる発達状況(知覚・巧緻運動)

項目名	月齢 ～6カ月	7～12カ月	13～18カ月	19～24カ月	**
赤い輪をひっぱる	7.0月	9.1月	—	—	(5)
ものをもちかえる	8.5	10.5	17.2月	—	(6)
小粒をとる	8.3	12.0	16.7	—	(7)
" (はさみ型)	12.3	11.3	16.8	24.5月	(9)
" (ピンセット型)	17.0	16.0	16.3	29.0	(9)
ベッグを板から抜く	10.3	13.1	15.0	24.8	(8)
" 抜いたり入れたりする	18.0	18.4	20.0	26.0	(8)
" 全部のベッグを入れる	20.5	26.0	23.3	28.8	(8)
カップに積木を入れる	15.6	17.3	21.5	25.8	(8)
" 10個全部入れる	19.6	21.0	25.3	28.4	(8)

(1982年2月現在)

** ()内の数字はMCCベビーテストの検査月齢

Table 5は、知覚・巧緻運動領域における平均達成月齢を示している。この領域においても、指導開始時期が早い程達成月齢も早くなる傾向が認められるが、開始時期がおよぼす影響は、粗大運動領域よりもさらに大きいといえる。この結果は、生理的要因が大きなウェートを占める粗大運動に比べ、知覚・巧緻運動では、訓練効果が大きく、しかも早い時期からの訓練が有効であることを示唆しており、興味深い。

Table 6 指導開始月齢別にみる発達状況(社会性・身辺自立)(言語)

項目名	月 齢	～6ヵ月	7～12ヵ月	13～18ヵ月	19～24ヵ月	**
自分でつかんで食べる		8.6月	11.2月	—	—	—
スプーンを使って食べる		21.0	17.0	24.0月	26.3月	—
コップを使って飲む		18.0	17.0	17.0	25.7	—
ダダ・ママをいう		11.3	10.0	15.0	* 15.0	(8)
1 語 話 す		17.5	13.0	15.5	20.5	(11)
2 語 以上 話 す		19.0	15.4	19.5	21.2	(12)
絵本をみて指さす		22.5	16.0	17.0	28.0	—
2 語 を 連 結 す		—	20.0	—	27.0	(13)

(1982年2月現在)

* 母親による報告

** ()内の数字はMCCベビーテストの検査月齢

Table 6は、社会性・身辺自立と言語の各領域に関する幾つかの項目における平均達成月齢を示している。これらの領域においては前述の2つの領域に比べ、指導開始時期による効果は認められず、全体的に超早期療育の効果が示されているとはいいがたい。しかし、これらの項目は、比較的高い月齢で達成されるものであり、本プログラム開始2年目の現時点では、何らかの結論をひきだすことはできず、今後の課題として残されたといえよう。

ま と め

生後1ヵ月から24ヵ月の47名のダウン症児を対象に、全般的発達を促進する超早期療育プログラムを試案し、指導した。指導期間は6ヵ月以下が13名、7～12ヵ月11名、13～18ヵ月20名、19ヵ月～21ヵ月が3名であった。指導の結果、DQは平均70前後を維持でき、比較的良好な状態を示した。また年長になる程示すDQの下降傾向をかなり食い止める効果

がみられたが、2歳をすぎるとやはり下降する傾向がうかがわれた。領域別に概観すると、全体的に指導開始時期が早い程、効果が大きいことが示唆されたが、特に知覚・巧緻運動の領域で顕著であった。社会性・身辺自立の領域と言語の領域では効果があまり認められず、今後、さらに検討することが課題とされた。

文 献

- 1) 安藤忠(1979) : ダウン症児に対する超早期療育の効果 総合リハビリテーション, 7(6), 445-452
- 2) Manual: Down's Syndrome Performance Inventory (1978) : The Model Preschool Center for Handicapped Children Experimental Education Unit, College of Education and Child Development and Mental Retardation Center, University of Washington, Seattle
- 3) Hanson, M. J. (1977) : Teaching Your Down's Syndrome Infant: A Guide for Parents. University Park Press, Baltimore
- 4) Pieterse, M. (1977) : Macquarie University Down's Syndrome Program. Macquarie University, Australia
- 5) 高松鶴吉監訳(1979) : 乳幼児の発達指導法 医歯薬出版
- 6) 藤田弘子・小田ミヤ子(1974) : 発達検査からみたダウン症乳幼児の知能の追隨的研究 大阪市立大学家政学部紀要, 22, 149-153
- 7) Carr, J. (1975) : Young Children with Down's Syndrome. Butterworths, London and Boston

粗大運動

資料 ダウン症児の超早期療育プログラム
(試案)

(1982年1月現在)

首のすわり

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	左右への動き(1) うつぶせにされると、 頭を横に向ける *(1)	1. 子どもをうつぶせにする。 2. 子どもの左右どちらかに、ガラガラなどのおもちゃを置いて、 子どもの注意をひくように、そのおもちゃを振って見せる。 <援助の方法> 1. 子どもが頭を向けたら、ほめる。 2. オモチャを振って見せても、子どもがその方を向かない場合、 母親(あるいは他の養育者)が子どもの頭に手を添えて、オモ チャの方へ頭を向けてやる。子どもがオモチャを見ている時に は、興味をひくよう、オモチャを振り動かす。 3. 左右、両方向とも、練習する。
2	左右への動き(2) あおむきにされると、 頭を左右に向ける (1)	1. 子どもをあおむけにする。 2. 首のすわりシート番号1と同一。 <援助の方法> 首のすわりシート番号1と同一。
3	左右への動き(3) 支えて坐位にすると、 頭を左右に向ける (1)	1. 子どもを支えて坐位にする(母親の膝の間に坐らせるとよい)。 2. 首のすわりシート番号1と同一。 <援助の方法> 首のすわりシート番号1と同一。
4	体をまっすぐに支えた時、 首がぐらぐらしない(1) (1)	1. 母親の両腕の中に子どもを抱きかかえ、頭の支えを少し減ら す。 2. 子どもの頭は、母親の胸によりかからせておいて、オモチ ャを見せたり、音を聞かせる。子どもが頭を母親の胸から離 して持ち上げるように、オモチャを見せたり、音を聞かせたり する。
5	体をまっすぐに支えた時、 首がぐらぐらしない(2) (2)	1. 子どもの身体を支えて母親の膝の上に坐らせる。 2. 子どもは前を向いても、母親の方を向いても、どちらでもよ いが、背中よりかかららないで、自分の頭をまっすぐに保って いるようにする。子どもの頭が母親の肩より高い位置になるよ うに支え、頭をまっすぐに保っている時間を少しずつ長くして いく。
6	首のすわり(1) うつぶせで、瞬時頭を もち上げる (2)	1. 子どもをうつぶせにする。 2. 両手を胸の下で組ませ、子どもの頭の前から少し上でオモチ ャ(例えばガラガラ)を見せる。もし、子どもが頭をもち上げ て一瞬、あごが床から離れたらよい。 <援助の方法> 1. 全面介助 — あごを、母親の手で少し上げてやりながら、「ほ ら、見てごらん」などと、声をかける。 2. 部分介助 — あごを、ほんの少し支えてやるだけ。 3. 介助なし。
7	首のすわり(2) うつぶせで、頭をもち 上げる。(床に対して 45°の角度で少なくとも 30秒間) (2)	1. 頭と胸が幾分もちあがるように、子どもの胸の下にタオルを 巻いたものや小さな枕を敷いて、うつぶせにする。もし、子ど もが頭をもち上げられない時は、援助する。 (胸の下に敷く枕類は、子どもが疲れないで、長時間確実に頭 をもち上げていることができるようになるまで使う。子どもが オモチャを手にとって遊ぶようになったら、枕類は取り除く。) <援助の方法> 1. 床から45°上方から、オモチャや鏡を使って頭をもち上げる よう誘う。話しかけたり、オモチャを見せて、45°まで頭をも ち上げさせ、もち上げたまま保持する時間を増やしていく。 2. 保持することができるようになったら、もち上げたまま左右 を見まわすことを行なわせる。

*〔〕内の数値は、健康児が獲得する平均月齢を示す。

8	首のすわり(3) うつぶせで自分の両方の前腕で体を支えて、胸と頭(90°まで)をもち上げる (2)	1. 胸の下に大きな枕を置いて、両方の前腕で支えて胸をもち上げ、うつつぶせの姿勢をとらせる。子どもが胸や頭をもち上げるように励ます。 2. 子どもを両前腕に体重をかけたうつつぶせの姿勢にする。子どもの頭を手伝ってもち上げてやり、子どもが自ら頭を上げるように励ます。
9	子どもを空間でうつつぶせにして水平に支えたと、頭を垂直に上げる(1) (3)	1. 子どもを空間でうつつぶせにして、水平に支える。子どもを母親の両膝の上にうつつぶせにして、その腹部を支えてもよい。 2. 子どもの顔の前から名前を呼んだり、話しかけたりして、そちらの方向を向くように誘う。
10	子どもを空間でうつつぶせにして水平に支えたと、頭を垂直に上げる(2) (3)	1. 首のすわりシート番号9と同一。 2. 色のついた音の出るオモチャを見せて、オモチャをゆっくり上方に動かして、両目で追わせて、頭をもち上げるよう誘う。
11	あおむけから頭が後にのぞけることなく坐位に起き上がる(1) (5)	1. 子どもの頭と肩を支えて、ゆっくりと坐位に起こす。体が坐位に近づくにつれて、頭の支えを少なくする。
12	あおむけから頭が後ろにのけざることなく、坐位に起き上がる(2) (5)	1. 子どもをあおむけに寝かせて、頭が軽くもち上がるように頭のうしろに小さな枕か、折りたたんだタオルを置く。 2. 体が床に対して45°になるまで引き起こしてやり、子どもが自ら頭をもち上げて体と平行になるまでまつ。
13	あおむけから頭が後ろにのけざることなく坐位に起き上がる(3) (5)	1. 子どもをあおむけに寝かせて、ゆっくりと坐位に引き起こす。床から15cm程もち上げた時に、引き起こすことを中止して、子どもが自ら頭をもち上げるまでまつ。 2. 子どもを坐位からあおむけへ徐々に寝かせる。子どもが床に頭を打ちつけないように、床に枕を置いておく。この枕は子どもが頭をのけざらせて床に打ちつけなくなるまで置いておく。 <援助の方法> 1. 頭をのけざらせて床に打ちつけないよう、十分気をつける。 2. 子どもの手首をもって引き起こしてはいけない。子どもが自らの手を握って腕に力を入れて起き上がることができるようになるまでは、肩を支えて起こす。 3. 子どもが腕に力を入れて、自分で起きるようになったら、手首をもって引き起こしてもよい。
14	あお向けに寝かせて、頭をもち上げさせる (6)	1. 子どもの頭の後ろにタオルか小さな枕を置いて、首を少し曲げさせておく。子どもが楽に動作を行なえるようになったら、枕は取り除く。 2. 子どもの頭を後ろから支えて、「頭をもち上げてごらん。」と言いながら一緒にもち上げる。 3. 子どもの足元に坐って、好きなオモチャを見せて頭をもち上げるように誘う。 4. 子どもの腰のあたりに、母親の両手を差し出して、お坐りするよう言う。母親の手を握って坐ろうとすると同時に、自ら頭をもち上げ始めるまで練習する。
15	空中であおむけに支えたと、自発的に頭を垂直にもち上げる (7)	1. 子どもの背中を支えて顔を上に向けて空中に保持する。誰かに子どもの名前を呼んでもらったり、オモチャを見せて誘って、頭をもち上げさせる。 2. 顔を上にして空中に支える。この姿勢にしたらすぐに、頭をもち上げるようになるまで、頭をもち上げる練習をする。

お 坐 り

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	支えられて坐る(1) 1分以上、家具あるいはだれかの手で支えられて坐る。 (3)	1. 家具や壁など、子どもを支えるのに適当な場所に子どもを置く。 2. 母親が子どもと対面する位置から子どもに話しかけたり、子どもの喜ぶオモチャを見せるなどして、子どもが支えられて坐るこの姿勢を持続させるよう励ます。
2	支えられて坐る(2) 1分以上、家具あるいはだれかの手で支えられて坐る。 (3)	1. 母親の両手で子どもを支えて坐位にする。 <援助の方法> 1. 両手でしっかり支え、子どもと対面する位置から子どもに話しかける。 2. 同様に、子どもの喜ぶオモチャを見せて、その姿勢を保つよう励ます。
3	支えられて坐る時、頭が安定する、坐位にさせられると頭をまっすぐに保つ。 (3)	1. 母親の前に子どもを坐らせるか、母親の膝にのせて胸で支える。 2. 子どもの好きなオモチャ（音の出るものや色のきれいな目立つオモチャがよい）を子どもの前に提示し、「○○ちゃん、見てごらん。」と呼びかける。 3. オモチャをだんだん目の高さに合うようにあげていき、最後には、子どもの頭が床に対し90°になるようにする。 <援助の方法> 1. 子どもが頭をできるだけ長くもち上げられるように、子どもにオモチャを見せたり、声をかけてはめてやる。 2. 色々なものを使ってみたり、子どもの注意をひくよう、オモチャの動きを変えてみる。 3. 1日10回ずつ練習する。 <記録の方法> 10回中8回位まで、子どもが目標の姿勢を保持する時間は、次の何番かをシートに記入する。 ①2秒間 ②5秒間 ③10秒間 ④15秒間 ⑤20秒間 ⑥25秒間 ⑦30秒間 ⑧40秒間 ⑨50秒間 ⑩60秒間
4	最小限の支えだけで坐るお尻のところで支えられると、身体をまっすぐに1分間坐る (4)	1. 母親の両膝の間に子どもを坐らせ、次の3つの支え方で援助する。 <援助の方法> 1. 子どもの両腕の下で支える。 2. 子どもの腰のところで支える。 3. 子どものお尻のところで支える。 <記録の方法> 1～3のどの援助を用いたか、また子どもが目標の姿勢を保持する時間は、次の何番かをシートに記入する。 ①10秒間 ②20秒間 ③30秒間 ④40秒間 ⑤50秒間 ⑥60秒間。
5	ベビーチェアに坐る 両腕のついた背もたれのまっすぐな赤ちゃん用の椅子に置かけると頭と背中をまっすぐに保って坐る (6)	1. 両腕のついた赤ちゃん用の椅子（あるいはそれに似たもの）に坐らせる。 2. 必要ならば、子どものまわりにクッションを置いたり、父親の古いネクタイやタオルをシートベルト代わりに用いる。 <援助の方法> 1. 子どもの好きなオモチャを子どもの前に示して、頭をまっすぐに保つように励ます。
6	自分の両手で支えながら坐る 床の上に置かれると、自分の両手で支えて、1分間ひとりで坐る (6)	1. 床の上など固い面の上に、子どもを坐位にして置く。両足は適当に開かせ、両足の間に子どもの両手をつかせる。 2. もし、子どもの腕が短くて床に届かない場合 足の間クッションか巻いたタオルを置いて、床の高さを調節する。 <援助の方法> 1. 目標の姿勢を保つように、母親が子どもに声をかけたり、子

		<p>もの好きなオモチャなどを振って見せてあげる。</p> <p>2. 1日10回ずつ練習する。</p> <p><記録方法> お坐りシート番号3と同一。</p>
7	<p>支えなしで坐る 固い表面の所に坐位に置かれると、支えなしに1分間、頭と背中をまっすぐにしてひとりで坐る (1)</p> <p>(1)</p>	<p>1. 子どもを固い表面の所に置き、自分の両手で支えて坐る姿勢にさせる。</p> <p>2. 次に、子どもの両腕を両膝の上に置かせて、自分で支えさせる(安定をよくするために、両足を少し開かせる)。</p> <p><援助の方法> 1. 1日10回ずつ練習する。</p> <p><記録の方法> お坐りシート番号4の時間と同一。</p>
8	<p>支えなしで坐る 固い表面の所に坐位に置かれると、支えなしに1分間、頭と背中をまっすぐにしてひとりで坐る (2)</p> <p>(7)</p>	<p>1. お坐りシート番号7と同一。</p> <p>2. 次に、子どもの片手を膝の上に置いて支えさせ、もう一方の手は、物事で遊ぶか、あるいは何かをつかうように、膝から離れた位置に保たせる。</p> <p><援助の方法> 1. 片手を自由にさせるために、オモチャを見せて励ます。 2. 手を床や自分の身体から離すために、オモチャは顔の前ぐらいの位置に見せる。 3. 1日10回ずつ練習する。</p> <p><記録の方法> お坐りシート番号4の時間と同一。</p>
9	<p>支えなしで坐る 固い表面の所に坐位に置かれると、支えなしに1分間、頭と背中をまっすぐにしてひとりで坐る (3)</p> <p>(7)</p>	<p>1. お坐りシート番号7と同一。</p> <p>2. 次に、子どもの両手は床や自分の身体に置かないで、頭と背中をまっすぐにして、ひとりで坐る。</p> <p><援助の方法> 1. 子どもの好きなオモチャを見せる。 2. 手を床や自分の身体から離すために、オモチャは顔の前位の位置に見せる。 3. 1日10回ずつ練習する。</p> <p><記録の方法> お坐りシート番号4の時間と同一。</p>
10	<p>ひとりでバランスをとって坐りながら、手を伸ばす、片手で自分の体を支えて、もう一方の手を目の高さまで上げる</p>	<p>1. 子どもを坐位にし、両腕で自分の身体を支えるようにさせる。</p> <p>2. 子どもの目の高さの位置にオモチャなどを見せて、そのオモチャを取るように励ます。</p> <p>3. 目の高さに上げる手を交代させ、両方の手とも上げられるようにする。</p> <p><援助の方法> 床の上で上記の方法でできない場合、次の方法もある。 1. くるくる巻いた毛布の上に子どもをまたがらせる。 2. 次に、オモチャを子どもに見せれば、そのオモチャを取るために、どうしても子どもは片手で離さなければならない。</p>
11	<p>ひとりで坐位をとれる (8)</p>	<p>1. 子どもをおおむきに寝かせる。頭をもち上げるように励まし、片方の肩を床から浮かし、体を捻ってお坐りになるように手伝う。もち上げた方の子どもの腕を握って、斜めに引き起こしてやると、子どもは半分だけ坐位になった姿勢をとっている。</p> <p>2. 次に、体がまっすぐになるまで両手を使って体を押し上げて坐位になるように手伝う。</p>
12	<p>坐位から腹ばいにひとりでなる (1)</p>	<p>1. 子どもを坐位にする。</p> <p>2. 子どもの上体を横にむけ、両手を体の横で支えさせる。</p> <p>3. 子どもの好きなオモチャを見せ、この位置から坐位に体をもどすよう励ます。</p> <p>4. 左右、両方向とも練習する。</p>
13	<p>坐位から腹ばいにひとりでなる (2)</p> <p>(9)</p>	<p>1. 子どもを坐位にする。</p> <p>2. 子どもの好きなオモチャを、子どもの前方の正面からはずれた一方の、子どもがすぐに手を伸ばして取れない所に見せる。</p>

		3. 子どもがオモチャの方に手を伸ばし、上体を手で支えて前にかがみ、ついには腹ばいになるよう励ます。
14	支えられなくても、あるいは自分の手で支えなくても、少なくとも10分間坐位を保つ (10)	1. 子どもの両手を支えに使わないで、両手でオモチャをもって遊ばせる。 2. 前方、または左右から、オモチャを差し出して、手を伸ばしてオモチャを受け取らせる。この動作は重心の移動の練習に役立つ。 3. 大きなオモチャ（ビーチボール、大きな風船、ぬいぐるみなどの動物）を差し出し、両手でそれを受け取らせる。また、体をひねってオモチャを受け取らせる。
15	小さな椅子を見せるとひとりで坐る (17)	1. 背もたれと両腕のある椅子を使うこと。 2. 椅子の前に、すぐ腰かけるように立たせる。 3. 膝を曲げ、肩の所を支えてやって坐位になるよう導く。 4. ひとりで坐れるように、少しずつ援助を減らしていく。 5. 坐っている間は、子どもが遊べるようにオモチャを渡してやる。 6. 肘かけのない椅子、背もたれのない椅子に、徐々に慣らしていく。
16	合図されてから1分以内に大人用の椅子にのぼる (18)	1. 大人用の椅子の上に、子どもの好きなオモチャを1つ置く。 2. 子どもの注意をひいて、のぼるように励ます。

寝 返 り

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	横向きに寝た位置から、あおむけに寝返りをする (2)	1. 子どもを横向きに寝かせる。子どもの顔を、上になった肩の方向にまわしてあげる。子どもの顔をゆっくりと動かし続けると、体も頭の動きと一緒に動いて、あおむけに転がる。反対側へも同様な方法で寝返りさせる。 2. 子どもを横向きに寝かせる。光や鈴、ガラガラに注意を向けさせる。それを追わせてあおむけになるように誘う。反対側も一緒に行なう。 <援助の方法> 1. 音の出るオモチャや母親の声で誘って顔を向けさせる。子どもが寝返ることができたら、軽くこすったり、抱き上げてほめる。
2	あおむけから、横向きになる (4)	1. 子どもをあおむけに寝かせる。 2. 子どもからみて、一方の側にオモチャなど興味をもくものみせ、それに手を伸ばそうとさせる。 3. その時、向こうとする方向に片足を交叉するのを曲げて手伝う。
3	うつぶせから、あおむけに寝返りをする (1) (4)	1. 子どもを横向きに寝かせる。 2. 子どもの顔を上になった肩の方へゆっくりと向ける。子どもは顔が向いた方へと寝返りをする（重力が転がることを容易にしている）。 3. 左右、両方向とも練習する。
4	うつぶせから、あおむけに寝返りをする (2) (4)	1. 子どもをうつぶせにして転がらせようとする方へ顔を向けてあげる。胸の下になる腕は、頭の上の方へ引き出してあげる。 2. 次に、太ももと膝を握って足を曲げてゆっくりとあおむけに転がす。 3. 左右、両方とも練習する。 <援助の方法> 1. 寝返りを手伝ってあげる時に、子どもが横向きになったら、手伝うのを中止して、自らあおむけになるよう励ます。 2. うつぶせに寝かせて、あおむけになるようにオモチャや哺乳ビンで誘うのもよい。

5	あおむけから、うつぶせに寝返りをする(1) (4)	1. 子どもをあおむけに寝かせ、片方の股関節と膝関節を曲げてお腹の上を斜めに横切るように動かす。股関節を十分に斜め前に出した後、子どもが体をひねって寝返りを始めるまでは赤ちゃんの肩を後方に押さえておく。 ＜援助の方法＞ 1. 子どもがひとりで寝返りを完全に行なうよう励ます。 2. 寝返りの始めに手伝う介助の量を減らしてゆく。
6	あおむけから、うつぶせに寝返りをする(2) (5)	1. 子どもが体を横切ってオモチャに手を伸ばすように誘う。体をひねって寝返りを始めるまで、腰を押さえておく。 2. 寝返りを始めたら、腰の押さえを放して、腰から転がって完全に寝返りを行なわせる。 3. 一方向に連続して寝返りをするようにオモチャで誘う。 4. 左右、両方とも練習する。

はいはい

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	手足でける動きをする (1)	1. 子どもをあおむきに寝かせる。子どもの膝と踵をもち、踵を押さえながら、膝を屈伸させる。両脚について行う。 2. 子どもの肘と手の平をもち、肘を屈伸させる。 3. まっすぐ伸ばすために手足に重りを結びつける。 ＜援助の方法＞ 1. モビールなどを前に置いて、足や手を伸ばそうとする気持ちを引き出す。 2. 手足に鈴などを結びつけて、動くとき音がするようにして動かそうとする気持ちを引き出す。
2	はいはいの動き (1)	1. うつぶせに寝かせると、はいはいの動きをする。 ＜援助の方法＞ 1. もし、上記の動きをしない時、手足を屈伸させてあげて、水泳のように動かすよう励ます。
3	足を床につけて、腕で支えて胸を上げる (2)	1. 子どもをうつぶせにして、目の位置にオモチャを置きできるだけ上にあげてゆき、その状態を保つようにする。 ＜援助の方法＞ 1. 小さな枕か、巻いたタオルを子どもの腕の下に入れる。 2. 片手で子どもの肋骨をささえてあげる。
4	はいはいの姿勢で手を伸ばす 片方の手で上体を支えて、他方の手をオモチャに伸ばし、それをつかむ (6)	1. 子どもを毛布の上でうつぶせにして物を示し、「○○ちゃん、取ってごらん。」と話しかける。 2. 始めは、手の届く所に物を置き、次第に離していき、6cm位腕の長さより遠くする。 3. 左右、両方とも練習する。 ＜援助の方法＞ 1. 子どもに提示する物は、動く物の方がよい。 2. 1日に10回ずつ練習する。
5	腹をつけてはう (7)	1. 子どもを腹ばいにし、手の届かない所に子どもの気に入るオモチャを置いて、取るように勧める。 2. オモチャを子どもから徐々に離していき、最後は60cm位離れた所に置かれた物も取るようにする。 3. 1日10回ずつ練習する。 ＜援助の方法＞ 1. 子どもの左右各々の足の裏に手を添えて押してあげる。 2. いろいろなオモチャや、子どもの気に入りそうな動物やピンなどを用意する。 3. 子どもがはい始めたらほめてあげる。
6	腹を床から離して這う (7)	1. 両手と両膝で身体を支えたはう姿勢をとらせ、子どもから少し離れた場所に、気に入りそうな物を置く。

		<p>2. 1日10回ずつ練習する。</p> <p><援助の方法></p> <p>1. 始めは、子どもの腹下にタオルか枕などを入れて、支えてあげる。</p> <p>2. 次に、腕を差し入れて支えてやり、次第に力を強めていき、子どもがひとりではうようにする。</p> <p>3. 子どもの気に入っているおもちゃをいろいろと置いてみる。</p>
7	はって階段を昇り降りする (14)	<p>1. 床のおもちゃを全部片付け、子どもの一段上、または一段下に気に入っているおもちゃを置き、それを取りに行くように励ます。</p> <p>2. 子どもが、後ろむきに脚から階段を降りても普通のことである。</p> <p><援助の方法></p> <p>1. 必要から、子どもの胸の下を手で支えてあげる。</p> <p>2. 階段がない時、クッション、スーツケース、箱などを代わりに使う。階段の高さは、15cm以下の方が安全なので高過ぎないようにする。</p>

立 位

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	自分の体重を支える (4)	<p>1. 平らな床で、大人の前に胸を支えて立たせる。</p> <p>2. 立っている時間を次第に長くしていく（1分間まで）。</p> <p><援助の方法></p> <p>1. 子どもが立ったままの姿勢を保てたら、笑ってほめてあげる。</p> <p>2. もし、うまく立てない時には、子どもの両足に雑誌を丸めて結びつけてあげることにより、固定してあげるとよい。</p>
2	少しの支えで立っている (6)	<p>1. 前に立たせて、支えを胸から、手をもってあげるだけにまで減らしていく。手をもってあげると、1分間位立っていられるようにする。</p> <p>2. 1日10回ずつ練習する。</p> <p><援助の方法></p> <p>1. 少しの支えで立てたら、ほめてあげる。</p>
3	家具につかまって立つ (8)	<p>1. 子どもの腰位の高さの家具（長椅子、足台など）の前に立たせて、家具の上に子どもの気に入ったおもちゃを置く。</p> <p>2. 1日10回ずつ練習する。</p> <p><援助の方法></p> <p>1. 子どもの気をひくために、動いたりするおもちゃがよい。</p> <p>2. うまくつかまって立っていられたら、ほめてあげる。</p>
4	手をひいてあげると立ちあがる (8)	<p>1. 母親の前に子どもを膝まづいて坐らせる。</p> <p>2. 子どもの手首を握って、「○○ちゃん、立ってごらん。」と言いながら、ひっぱってあげる。</p> <p><援助の方法></p> <p>1. 家具の上に、子どもの気に入ったおもちゃを置いたり、家具に結びつけておく。</p>
5	立体から身をかがめて坐る (9)	<p>1. 子どもの好きなものを、家具の高さから床に下げていき、それを取ろうと身をかがめて坐るよう、子どもを励ます。</p>
6	支えなしで1分間立っている (11)	<p>1. 母親がしっかりと張って持っている約40cmのゴムホースや太いロープを子どもに持たせて立たせる。母親は子どもの手から少し離してホースを持ち、1.5cmから10cmまで離す長さを変えていく。</p> <p>2. 母親の手のひらに子どもの手のひらをそえさせるか、母親の手の指を子どもに握らせて立たせる。</p> <p>3. コーナーや壁を背にして、子どもを立たせる。その際、子どもにおもちゃなどを持たせ、子どもが壁によりかからないで立つよう励ます。</p>

		4. 母親は椅子に坐り、子どもを膝の間に立たせ、母親が両膝を少しずつ開いていく。 1～4のどの場合でも「○○ちゃん、立って。」と話かけする。
7	支えなしで坐位から立ちあがる (13)	1. 子どもをしゃがんだ状態にし、子どもの頭上にオモチャを置いて立つよう励ます。 2. 子どもが高ばいを始めたら、お尻や肩を支えて「立って」と声をかけ、立ち上がる練習をさせる。少しずつ支えて減らしていく。
8	立っていて前かがみになり、起き上がる (16)	1. 床に厚い本や、カタログを置き、子どもをかがませて手をその上に置かせる。その状態から立ち上がるよう励ます。 2. 子どもが立っている足元に、子どもの好きなオモチャを置いて、それを取らせる。
9	補助すると2～3秒間片足で立つ (16)	1. 子どもに床に置いたはしご、ロープなどの障害物をまたがさせる。 2. 踏むと音の出るオモチャの上に、片足を置かせる。 3. 母親の手の指を握らせて、片足を上げるよう励ます。 4. 子どもの足をくすぐったり、靴を見せるよう求めて、片足を上げるよう励ます。
10	片足で1秒間立つ (23)	1. 立位シート番号9の練習で、母親の助けを少しずつ減少させていき、全く助けなしでできるようにさせる。 2. 少しでもできたらほめてあげる。 3. 子どもの足元にシャボン玉を吹き、それを踏みつけさせる。

歩 行

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	胸を支えると、足ふみを始める (7)	1. 子どもの胸を支えて立たせる。 2. 足ふみをするよう励ます。もし、できなければ、子どもの脚をもって足ふみをさせてあげる。 3. 膝を曲げるような訓練をたくさんやらせる（子どもの上体を支えてやり、膝を曲げてとびあがらせる）。
2	家具につかまって歩きまわる (9)	1. 子どもを長椅子や座卓などの家具の前に立たせ、子どもの手の届かない位置に好きな物を置く。 2. 横歩きする時、足や腕を取って補助し、「○○ちゃん、あんよ。」と歩くように誘う。 3. オモチャにひもをつけ、それを左右に引ばって、子どもを歩きまわらせる。 <援助の方法> 1. 2つの家具を間隔をおいて、直角、あるいは並行に置き、その上にオモチャなどを置いて、子どもを一方の家具から他方の家具へつたい歩きさせる。ひとりで移れない時は、補助してあげる。 2. 壁にむかって立たせ、壁に手をあてて、つたい歩きさせる。
3	支えられて歩く (9)	1. 子どもを立たせ、腰や尻を支えて1～2秒歩くよう励ます。 2. 次に、子どもの肩を後ろから支えて歩かせる。 3. 子どもの持つゴムホースを母親が持ってやり、歩かせる。 4. 子どもの胸の高さに差し出された母親の手のひらの上に子どもの手を重ねて、歩かせる。
4	片手をひかれて歩く (12)	1. 子どもの片手だけ支えて、歩くよう励ます。 2. 左右、両方の手で練習する。もし必要なら自由な方の手にオモチャを持たせる。
5	支えなしで1人で歩く (12)	1. 子どもの肩をしっかりと支えて、歩かせる。 2. 「○○ちゃん、あんよ。」とことばかけて、肩の支えを指2本、指1本と次第に弱くしていき、ついにはひとりで歩かせる。

		<p>3. 子どもにゴムホースを片手で握らせ、母親は次第に離れた所を持って支えるようにしていき、ついには支えなしでひとりで歩かせる。</p> <p>4. 子どもに母親の両手を握らせ、次に指だけを握らせ、次第に支えをなくしていき、ついにはひとりで歩かせる。</p>
6	横歩き (14)	<p>1. 椅子などの2つの家具の間に子どもを立たせ、横歩きするよう励ます。</p> <p>2. 家具の間隔を次第に狭くしていき、子どもが横歩きせざるを得ないようにする。</p> <p>3. 両親の間に子どもを立たせ、両親と一緒に横歩きさせる。</p>
7	後ろ歩き (15)	<p>1. 母親が子どもに後ろ歩きの手本を示す。</p> <p>2. オモチャに結びつけたヒモを引いて、後ろにさがるように励ます。</p> <p>3. 子どもが三輪車やバギーに手をつけている時、反対側から押し上げることによって、後ずさりさせる。</p> <p>4. 子どもと向き合って立ち、子どもの方へ前進することにより、子どもに後ずさりさせる。</p>
8	手を持つと、階段を昇り降りする (17)	<p>1. 階段が高すぎたら、本やブロックを用いて、子どもに合った高さに調節する。</p> <p>2. 子どもの手をとって、階段を昇るよう励ます。できたら、ほうびをあげる。</p> <p>3. できない時、片足を階段にのせ、もう一方の膝を曲げさせて昇るよう援助する。援助がいらなくなるよう、次第に力を弱くしていく。</p> <p>4. マーチなどの音楽をかけ、そのリズムにあわせて、階段を昇り降りしてもよい。</p>
9	手すりにつかまって、階段を昇り降りする (17)	<p>1. 子どもの前か後ろに立ち、子どもが昇ったり降りたりしたらほめる。</p> <p>2. 子どもは片足を階段にのせ、次に、他方の足を同じ段にのせる方法で昇り降りする。</p> <p>3. 手すりが適切でないなら、壁に手をつけて昇り降りさせる。</p>
10	速歩き、ぎこちないが走る (18)	<p>1. 速く歩く練習をさせる。</p> <p>2. 子どもに母親の後を追いかせさせる。</p>
11	線上を歩く (24)	<p>1. 床に幅15cm、長さ2mくらいの通路をテープやヒモでつくる。</p> <p>2. 子どもに母親が通路を歩くのを見せ、まねさせる。</p>
12	走る (24~)	<p>1. 歩くのが走るのに変化するくらいまで、速く歩かせる。</p> <p>2. 障害物のない空間を豊富に与えて子どもに走らせる。</p>

蹴と跳躍

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	大きなボールをけろうと近づいていく (20)	<p>1. 子どもを椅子に坐らせ、ビーチボールのような軽いボールをけらせる。</p> <p>2. ボールに近づいていき、ける方法を子どもに示す。</p> <p>3. 子どもに「ボールをけてごらん。」と言う。</p> <p>4. ボールを転がしたら、笑えんでほめてあげる。</p>
2	まねをして大きなボールをける (20)	<p>1. 母親がビーチボールに近づいていって、ボールをける。</p> <p>2. 子どもに「ボールをけてごらん。」と言って励ます。</p> <p>3. 成功したら、笑いかけほめたりする。</p>
3	指示に従って大きなボールをける (20)	<p>1. 母親はボールをける動作を見せないで、「○○ちゃん、ボールをけてごらん。」と言う。</p> <p>2. ビーチボールやその他のボールなど、適切な物をけた時だけ、ほめてあげる。家具や人などをけらないように教える。</p>
4	両足を揃えて、跳びあがる (23)	<p>1. 母親が「とびましょう。」と言って、楽しそうにとびあがってみせる。</p>

		<p>2. 子どもができなかったら、子どもの腋の下に手を入れたり、子どもの手をもったりして、一緒にとびあがる。</p> <p>3. ひとりでとびあがるようにする。この時、音楽をかけるとよい。</p>
5	階段から一段跳び降りる 〔24〕	<p>1. 母親が段の上に立ち、跳び降りてみせる。</p> <p>2. 子どもの手を持って、一緒に跳び降りよう励ます。</p> <p>3. ひとりで跳び降りよう励ます。</p> <p>4. 適切な階段がない時、箱やスーツケースなどを用いる。床や階段は、すべらないよう、安全なものにする。</p>

投げる

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	坐ってボールを投げる 〔12〕	<p>1. 子どもから60cm離れて、「○○ちゃん、こっちにボールを投げて。」と言う。</p> <p>2. 始めは、母親の方向にボールを放すだけで、ほめてあげる。</p> <p>3. 練習を重ねて、次第に母親の所に届くようにさせる。</p> <p>4. 投げる的として、浮輪や座布団、などを用いてもよいし、兄弟を参加させるのもよい。</p>
2	立って片手でボールを投げる 〔18〕	<p>1. 子どもから60～90cm離れて、「○○ちゃん、こっちにボールを投げてごらん。」と言う。</p> <p>2. 始めは、片手でボールを投げようとして、腕を上げ、上からボールを投げたらほめてあげる。後には、正確にボールを投げた時にだけほめてあげる。</p> <p>3. 投げる的として、輪や箱などを用意し、それに向かって投げるよう励ます。的に当たったか否かをすぐに子どもに教えてあげる。</p>

知覚・巧緻運動

視 覚

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	顔の正面から25～30cm離れた物をじっと見つめ、わずかな物の移動を目で追う 〔0〕	<p>1. 母親は、子どもが見える所において、子どもの注意が母親の方に向いたら、話しかけたり、表情を変えてみたりする。</p> <p>2. 子どもに見えるように、ベビーベッドの上や棚にオモチャや絵などをつり下げる。絵は頻繁に取りかえ、雑誌の頁、包装用紙、カレンダーの絵を利用し、斜線デザインや矢の標的のデザインも使ってみる。</p> <p>3. 模様入りのシーツや毛布を使ってみる。</p> <p>4. 子どもの周囲の照明（明暗）を変える。</p>
2	顔の前で水平に、垂直に、円を描いて動く物を目で追う 〔3〕	<p>1. 子どもが母親を見た時、母親は顔を右から左、左から右、上から下、下から上、あるいは円を描いて動かす。子どもが母親の顔を目で追うように励ます。</p> <p>2. 子どもの目が正面を見ている時に、子どもの興味をひく物を軽く振って注意をひきつける。子どもがその物を見たら、それをゆっくりと水平に、垂直に、円を描いて動かし、目で追うように励ます。</p> <p>3. 子どもの視覚領域内で、しかもゆっくりと動かす。</p>
3	物を見せると正面から側面へ動く物を目で追う 〔2〕	<p>1. 子どもの好きなオモチャ、または紙製の風車、懐中電灯のような鮮やかな色で光沢のある物、時には音のする物を使う。見せる物をいろいろ変化させる。</p> <p>2. 子どもをおお向けに寝かすか、支えて坐らせる。</p> <p>3. 子どもの顔の正面から25～30cm離して、子どもの好きな物を見せる。軽く振ったり、音をたてたりして注意をひく。</p> <p>4. 「○○ちゃん、見てごらん。」と言ってゆっくり側面へ物を</p>

		物を動かす。目をそらしたら中止して、始めからやり直す。 5. 正面から左右両側へ物を動かし、できたらほめる。
4	物を見せると右側から左側へ、あるいは左側から右側へ動く物を目で追う (3)	1. 2. 視覚シート番号3と同一。 3. 子どもの顔から25~30cm離れた右側か左側に子どもの好きな物を見せる。軽く振ったり、音をたてたりして、注意をひく。 4. 「○○ちゃん、見てごらん。」と言って、右側から左側へゆっくり動かす。目をそらしたら中止して、始めからやり直す。 5. 左右両側へ物を動かし、できたらほめる。
5	第2の物が見せられたら、2~3秒以内に、最初に見せられた物から目を移す。 (3)	1. テーブルに向かって、親の膝の上に子どもを抱いて坐らせる。 2. 1つの物を見せて、2~3秒後に、他の物を見せる。 3. 最初の物から、第2の物へ子どもの目が移るように、第2の物を動かしたり、音をさせたりする。 4. ガラガラやベルのように、明るくて、輝いている物のように、子どもが興味をもつような物を見せる。
6	小さい物を10秒間続けて見る (4)	1. 子どもをテーブルに向かって、母親の膝に抱いて坐らせる。 2. 2~3cmの積木やボール、ボタン、豆粒などをテーブルの上に置く。 3. 10秒間、あるいはそれ以上の間続けて物を見るように、ことばをかけて促す。 4. 最初は、明るい色のボールや積木を見せ、次第に豆粒のような小さくて目立ちにくい物に変えていく。

手を伸ばす

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	物に届かなくても、物の方に手を伸ばし、力いっぱいにたたく動きをする (3)	1. 子どもの手のところに、大きさ、形、色、材質等が異なる種類の物を置く。 2. 子どもが手を伸ばしたらほめる。 3. 手を伸ばして届くことをするために、ベビーベッドの子ども手の届く範囲内に、モビール、おもちゃ等をつるす。
2	手の届くところに置かれた物に手を伸ばして、さわる。 (4)	1. 子ども用椅子に坐らせるか、椅子やソファに支える。 2. ガラガラやベルなど、子どもの好む物を使う。 3. 物を見せて、「○○ちゃん、手を伸ばして取ってごらん。」と言う。子どもの興味をひくように、物をゆり動かす。 4. 手を伸ばして届いたらほめて、それで遊びたがったら、遊ばせる。 5. 物を置く場所を変化させる。
3	左右の手に二つの物をもつ (5)	1. 子どもに小さい物を見せて、それに手を伸ばして握り、持っているようにすすめる。 2. 子どもの好きな小さくて握れるような他の物を、他方の手に示す。 3. 最初につかんだものを持ちながら、次の物に手を伸ばしたり、触れたりしたら、子どもをほめる。 4. 子どもの前と左右両側に物を置いておく。

握 る

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	手のひらにのせられたガラガラを握っている (2)	1. 子どもの手のひらにガラガラをのせる。 2. 物の周囲に子どもの手を閉じさせ、持つように子ども 3. 最初に持たせるガラガラは、握りやすいもの(例えば)がよい。また握る方向に関係なく子どもが容易に握れて、握っている間に偶然手を動かしたら音がするようなガラガラを選ぶ。
2	日昼の活動の間、手を握らず、開いている (3)	1. 子どもと遊んでいる間に、握りこぶしを開いてあげる。子どもの手のひらにガラガラやコルク栓などの小さい物をのせてあ

		<p>げて、子どもの手を開くようとする。</p> <p>2. 指を伸ばすように、子どもの手の甲をなでてやる。</p> <p>3. 使う物として、手ざわりの良い物を選ぶ。</p>
3	積木を手に持たせると、手のひらを使って握る 〔3～4〕	<p>1. 一辺が2～3cmの積木、あるいは同じ位の大きさの物や、母親の指を子どもの手のひらにのせる。</p> <p>2. 握るのがむずかしいなら、母親が手を添えて子どもの手を物の周囲に触れさせ、握らせてやる。</p> <p>3. 母親の指を子どもの手のひらの真中にのせて、子どもの手のひらを軽く押してやり、握るのを助ける。</p>
4	小指、薬指、中指の3本を使って、自発的に物を握る 〔3～5〕	<p>1. 子どもが小指側の3本の指で、母親の指を握るよう励ます。</p> <p>2. できない場合、母親が子どもの指を軽く閉じさせて、握るのを手伝う。</p>
5	親指と人差し指、中指、手のひらの一部で、物を握る 〔3～5〕	<p>1. 子どもに柔らかいゴムやスポンジや、木の積木、お手玉などを与えて、親指と人差し指を使って握るよう励ます。</p>
6	手のひらを使わずに、親指と向きあう4本指とで、小さい物をつかむ〔5〕	<p>1. 種々の手ざわりのよい小さな物を子どもに与えて、つかむ練習をさせる。</p> <p>2. 飲みこんでしまわないように、母親が傍にいる時だけ与える。</p>
7	小さい物を自分の方にもってくるのに、手ですくったりかき集めたりする 〔6〕	<p>1. テーブルの上に小さい物（干しブドウ、バターボーロなど）を置く。</p> <p>2. 子どもが目標行動を始めなかったら、母親が子どもの手を取って、くま手のように物をかき集めて、子どもの方に近づけるよう、手を動かしてあげる。</p> <p>3. ひとりで行なうよう、ことばかけして励ます。</p>
8	親指と人差し指と中指の3本で、物をつまむ 〔8〕	<p>1. レーズン、小さく切ったチーズ、コーンフレーク、バターボーロ、豆類、ボタンなどの小さい物を、子どもの前に置く。</p> <p>2. 母親が小さい物をつまんで、つまみ方を教える。子どもにもつまみ上げるようすすめる。</p> <p>3. 母親の指でつまんで子どもに与えると、子どもは目標のようなつまみ方をしやすい。</p> <p>4. 口に入れて飲みこむと危険な物を使う時は、必ず母親が傍についている。</p>
9	親指と人差し指で物をつまむ 〔9～10〕	<p>1. 子どもに、握るシート番号8で用いたような小さな物を与える。動機づけを高めるために、1度に1個与える。</p> <p>2. 最初は、たやすくつまめるように表面がざらざらした物を与える。その後表面がなめらかな物に変えていく。</p> <p>3. ひもやつまみのついている物、ひもや毛糸のついた風船、つまみのついたブロック等を使うのもよい。</p> <p>4. かなり小さい物でも、親指と人差し指で、ピンセットのようにつまめるようになるまで練習を続ける。</p>

物の操作 I

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	1日に数回、両手をあわせたり、指で遊んだり、指を見たりする 〔2～3〕	<p>1. 明るい色のゴムを輪にして子どもの両手にかけて、手をあわせさせる（ゴム輪に鈴をしっかりとつけてもよい）。</p> <p>2. 「せっせっせ」のような遊びを母親がさせてあげて、子どもの両手をあわせてやる。</p> <p>3. 子どもの手にはリボンを結びつけて、自分の手に注意をひかせる。手が見えるように上にあげさせ、見つめさせる。</p>
2	新しい物が与えられると手でさわったり、握ったり、口にもっていったりして、探索する 〔4〕	<p>1. 使う物は、種々の材料で作られた手ざわりの異なるボール、鍋、スプーン、コップ、皿などの日常用品、プラスチックの輪や糸巻き、紙やひも等である。</p> <p>2. 上記の物を子どもに見せたり、与えたりする。</p> <p>3. ひもで物をぶら下げて、つかむようにすすめる。</p> <p>4. 紙やひもは、ひらひらさせたり、振ったりして遊び方を示す。</p>

		5. オモチャを子どもと引っぱりっこして遊ぶ。
3	小さい物が両手にのせられると、5秒間各々の手で物を握っている 〔4～5〕	1. 子どもの両手に各々小さい物をのせる。子どもが物を握っている間、ほめる。 2. 使う物は、2～3cmの積木、ボール、糸巻き、コルク栓、ガラガラ等である。
4	一方の手にもっている物を他方の手に持ちかえる 〔5～6〕	1. 両手をあわせるゲーム（「せっせっせ」など）をする。 2. 子どもが身体の正面で両手で物を持つことに慣れるようになるために、一方の手で持つには大きすぎて、両手で持たざるをえないような物を与える。 3. 子どもが1つのオモチャを他方の手でもちかえなければならぬように、1つのオモチャを子どもに与え、次に別のオモチャを与える。 4. 右手から左手へ、左手から右手へ、両方向のもちかえを練習させる。
5	自分の前のテーブルか床に同時に置かれた2つの物をつまみ上げる 〔6〕	1. 子どもを膝やベビー椅子に、あるいは支えて床に坐らせて、2つの小さい物を子どもの前に置く。 2. 同時に両方の物をつまみ上げて、握っているように促す。 3. 子どもがつまんだり握ったりしたくなるように、子どもの好きな握りやすい物を使う。この物を母親が握ったり、動かしたりして興味をひく。
6	自分の前のテーブルか床に同時に置かれた3つの物をつまみ上げる 〔6～7〕	1.2. 物の操作Iシート番号5と同一。 3. 両手に各々物を握った時は、3つ目の物を見せて、一方の手で2つを持ち、他方の手で1つを持つように促す。 4. 3.ができれば、同時に3つの物を見せて持つように促す。
7	2つの積木を打ち合わせる 〔8～9〕	1. 2～3cmの積木、スプーン、糸巻きのような、打ちつけると音のする小さい物を子どもに与える。 2. 子どもが2つの積木を打ちあわせたらほめる。 <援助の方法> できない場合、援助してやり、次第に援助を減らしていく。 ① 子どもの手の上に母親の手を添える ② 子どもの手首に母親の手を添える ③ 子どもの前腕に母親の手を添える ④ 最初だけ、子どもの肘に軽く触れる ⑤ 子どもが1人で行う
8	容器の中に手を入れ30秒以内にその中のものを取り出す 〔9〕	1. 床か子ども用椅子に坐らせ、子どもの前に子どもの好きな小さい物を入れた容器を置く。 2. 容器に手を入れて、小さい物を取り出したらほめる。 3. 容器は次のような順序で次第に小さくしていく。 ①大きいボール ②中くらいのボール ③小さいボール ④コップ 4. 容器はこわれにくいボール、コップ、箱、カンがよく、2～3cmの積木やボール、せんたくバサミなどを中に入れる。 <援助の方法> 物の操作Iシート番号7と同一。
9	容器の中へ物を入れる 〔9～10〕	1. 子どもの前に容器と小さい物（積木やせんたくバサミ）を置く。 2. 容器に物を入れたらほめる。 3. しだいに容器を小さくし、入れる物の数を増やしていく。
10	型はめ板から円形の木型をはずす 〔9～10〕	1. 単純な型はめ板（正三角形、正方形、円形などの簡単な型はめ板）を用意する。市販のものがなければ、厚紙か木で作り、木型を型はめ板の表面より少し高くなるように作るか、取っ手やつまみをつける。 2. 子どもの前に型はめ板を置いて、円形の木型をはずすよう促し、できたらほめる。 3. 必要なら、1枚の円形の木型以外はテープでとめる。

11	ベグボードからベグを抜く (9~10)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 数種類のベグボードを用意する。握るための大きいつまみのあるベグ、直径1.5 cm位の太いベグなど、市販のものがない場合合作ったり改良したりする。 2. ベグを抜きとるために援助が必要な時は援助し、ひとりできるようにするまで練習する。
12	棒に輪を入れる (11)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 輪と棒を用意する。棒は、木製の基盤に棒をさし込んだもの。輪は、プラスチックか金属製のプレスレッドなどを用いる。 2. 輪を次第に小さくしていき、ゆっくり時間をかけてむずかしくしていく。 <p><援助の方法> 物の操作シート番号7と同一。</p>
13	ミニカーを与えると、それを押す (11)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの手の大きさと、押しやすく、部品がはずれにくく、とがったところのない安全で、車輪のあるおもちゃの車を与える。 2. 子どもに車をどのように押すのか、楽しいゲームにして見せてやる。「ブーブー、ブルーン」などの音声を入れて押してやる。 3. 車を押して、まねをしようとしたらほめる。 4. 必要なら、子どもの手の上に母親の手を添えて援助する。
14	ベグが与えられると、ベグポートにベグを1本さしこむ (13)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもをテーブルの前か、床に坐らせる。母親は子どものわきか後ろに坐る。 2. ベグをどのようにベグポートにさしこむかやって見せる。 3. ベグの穴を指さしながら、子どもにベグを与えて「○○ちゃん、入れてごらん。」と促す。 4. 最初、大きくて太いベグで行ない、できたら小さくて細いベグに変える。できたらほめる。 <p><援助の方法> 物の操作Iシート番号7の②~⑤と同一。</p>
15	容器の中へ、フタの穴から小さい物を入れる (13)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもをテーブルに向かってか床に坐らせ、容器を与える。 2. 容器のフタにしている穴から、どのようにして小さい物を入れるかを、子どもに見せる。 3. 小さい物を子どもに持たせて「○○ちゃん、入れてごらん。」と言葉かけする。できたらほめる。 4. 容器は、子どもの興味を長く継続させるために、物を落とした時に音のするものがよい。缶、プラスチック、ポリプロピレンなどの容器を用いる。小さい物は、木製ビーズ、さいころ、ボタン、おもちゃのご石、プラスチックのビーズ、豆類などを用いる。 5. 小さい物を飲みこむと危険なので、身近かで大人が監督している時以外は子どもにさせない。入れないで物を投げたり、口に入れたりしたら、少しの間用具を取りだし、子どもを無視する。その後、子どもがやりたがったら与える。
16	物の入っている容器が与えられると、中に入っている物を取り出すために容器を上下、横倒しにする (14)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 葉ピンのような口の小さいピンの中に、レーズン、豆粒、バターボーロなどの小さい物をいくつか入れる。 2. ピンを振って中に入っている物をガラガラ鳴らし、ピンを上下させて中の物を放り出すことを何度かやって子どもに見せる。その後、子どもにも中の物を出すよう促す。 3. 必要なら、容器を逆さにひっくり返すのを援助してやる。
17	6個の積木をコップに入れて、それから出す (14)	<ol style="list-style-type: none"> 1. こわれにくい容器（コップ、小さい缶など）と中に入れる小さい物（さいころ、コルク栓、小さいボール、ボタンなどを約10個）を子どもの前に置く。 2. 母親がこの活動をやってみせ「○○ちゃん、やってごらん。」と促す。
18	型はめ板の円形の木型をはめこむ (14)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 物の操作Iシート番号10と同一の型はめ板を用意する。 2. テーブルに向ってか床の親のそばに子どもを坐らせ、型はめ板を与える。 3. 母親が円形の木型をはめたり、はずしたりして子どもに見せ

		<p>る。その後、「○○ちゃん、入れてごらん。」と促す。できたらほめる。</p> <p><援助の方法> 物の操作 I シート番号7の②～⑤と同一。</p>
19	積木を2個つむ (14)	<ol style="list-style-type: none"> 1. テーブルに向かって、または床に子どもを坐らせる。 2. 積木を2個与える。 3. どのように積み重ねるかを子どもに見せてから、積木を1つ子どもに手渡し、「○○ちゃん、置いてごらん。」と言いながら、他の積木の上部を指さす。 4. 適当に積んだら子どもをほめる。 5. 子どもが積木を投げたら、取り去ってしばらく待ってから、又与える。数度積木を投げたら、中止して、他の時にやってみる。 6. 次の順序でしだいに積木を小さくしていく。 ①10cmの箱か積木 ②5cmの積木 ③2～3cmの積木 <p><援助の方法> 物の操作シート番号7の②～⑤と同一。</p>
20	丸い箱のフタをする (16)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 丸い箱と箱のフタを子どもに与える（子どもが扱いやすい大ききさで、フタがきつすぎないような箱や缶）。 2. 母親が箱にフタをして子どもに見せ、「○○ちゃん、フタをしてごらん。」と促す。できたらほめる。 3. ポットやなべでもフタをさせてみる。
21	ベグボードにベグを全部さしこむ (17)	物の操作 I シート番号14と同一の方法でベグの数を増やす。
22	積木を3～4個つむ (17)	物の操作 I シート番号19と同一の方法で積木を3～4個に増やす。
23	丸いカップを重ねる (18)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 市販の丸い形のカップを子どもに与える。 2. 母親がカップを重ね合わせて子どもに見せ、子どもにも重ねるよう促す。 3. できたらほめる。カップの数が多くてむずかしい場合、大、中、小3個位のカップで練習する。3個でできれば、奇数あるいは偶数順の大きさのカップで、その後全部のカップでというように、次第にむずかしくしていく。
24	型はめ板に、3種類の木型の中から円形を取り出してはめこむ (18)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正三角形、正方形、円形の木型のある型はめ板の円形以外のところを厚紙でおおい隠す。 2. 3種類の木型の中から、円形を選んではめこむ活動を母親がやって見せて、「○○ちゃん、丸いの入れてごらん。」と促す。 3. 円のまわりや型はめ板の丸い輪郭を子どもの指でなごらせる。 4. 円形を正しく選んではめ込めるようになったら、正方形や正三角形も加えて練習する。
25	型はめ板に、3種類の木型をはめこむ (21)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正三角形、正方形、円形の木型のある型はめ板を子どもに与える。 2. 母親が3種類の木型をはめこんで見せ、子どもにもはめてみるように励ます。 3. 各々の形の木型と型はめ板の輪郭を子どもの指でなごらせる。 4. 同じ型はめ板に木型をはめたものを見本に見せ、それを真似ではめこませる。
26	積木を5～7個つむ (23)	物の操作 I シート番号19と同一の方法で、積木を5～7個に増やす。
27	四角形の箱のフタをする (23)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正方形や長方形の箱（子どもが扱える大ききさで、フタのきつすぎないもの）のフタをしたり、あけたりして子どもに見せる。 2. 子どもにも箱とフタを与えて、フタをするよう励ます。できたらほめる。
28	四角形のカップを重ねる (24)	物の操作シート番号23と同様の方法で、四角形のカップを用いて行なう。
29	10～12個の積木を箱の中に全部しまいこむ (24)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 10個（2列に5個ずつ入る箱）、あるいは12個（3列に4個ずつ、2列に6個ずつ入る箱）の積木（立方体）がちょうど入

		<p>る箱と積木を用意する。</p> <p>2. ばらばらの積木を箱の中に1個ずつつめる活動を子どもに見せる。子どもにもやってみよう促す。</p> <p>3. 必要なら手伝ってやり、次第に援助をなくす。</p>
--	--	---

物の操作 II

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	本のページをめくるのを手伝う (12)	<p>1. 子どもが、親がページをめくる時に手伝おうとしないなら、どのようにめくるかを子どもに見せる。次に、ページの上に子どもの手を置いて、親がページをめくる。</p> <p>2. 次にページに新しい絵のあるような厚い紙の本を使う。</p> <p>3. 丈夫で明るい絵のある本を選ぶ。絵は実物そっくりに書かれたものがよく、絵を命名することを教える時にこのような本は非常に適している。</p>
2	なぐりがきをする (14)	<p>1. クレヨンやフェルトペンでなぐりがきしているところを子どもに見せ、子どもにもクレヨンかフェルトペンを渡し、子どもの手をとってなぐりがきを教える。</p> <p>2. 次第に手伝うのを減らしていく。子どもがかいたものは何でもほめる。</p> <p>3. 子どもが紙で遊ばないように、包装紙の裏や構造紙のような大きい紙をテープで机にとめておく。壁や家具にかくのではなく紙にかくことを教える。</p> <p>4. 絵具のついた太めの筆を与えたり、フィンガーペインティングをするなど、かくことを楽しませる。</p>
3	直線がきをまねる (18)	<p>1. 親が紙に何かをかく。子どもが既にかける線、直線(横か縦の線)のように簡単な線を大きく紙にかいてあげる。</p> <p>2. 「○○ちゃんもやっごらん。」と子どもにもかくことをすすめる。</p> <p>3. 子どもがかこうとしたらほめる。親のかいたものを完全に模倣することを期待せずに、大体同じ方向へペンを動かすように教える。</p> <p>4. 筆や紙は、物の操作IIシート番号2と同一。</p> <p>5. かくことが好きになるように、援助はできるだけ除去し、「ブー」とか「シュー」など言いながらかいてみせる。</p>
4	1度に1ページずつひとりで本をめくる (24)	<p>1. 厚手の紙を使った丈夫な本を子どもに与える。</p> <p>2. ページをめくる練習をして、ページをもみくちゃにすることよりも、絵をみることに興味をもつようになったら、それ程厚くない紙を使った本を与えてみる。</p> <p>3. 1度に1ページめくったら、子どもをほめる。</p> <p>4. 子どもに絵について話してあげる。絵の中の人や物をさして「これは○○なのよ」と教えてやり、子どもにも、「○○はどれかな。」と指さしをさせる。</p>
5	横線、縦線、円をまねてかく (24)	<p>1. 横線、縦線、円を模倣させる。</p> <p>2. 指で、横線、縦線、円をたどらせる。直線と曲線の違いを理解させる。</p> <p>3. 子どもが、親のかいたものとよく似た線をかけるようになるまで、どんどんかかせる。</p> <p>4. 母親は、ことばをはさみながらかいて(例えば、「車がブー」)と言いながら横線、「雨がジャー」と言いながら縦線、「まーあるーいよ」と言いながら円など)、子どもに印象づけ、子どもがかきたくなるような楽しい雰囲気をつくる。</p> <p>5. 紙の色やクレヨン、フェルトペンの色を時々変える。</p>

問題解決

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	輪に結びつけられているひもを引く (6)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大きいプラスチックの輪かプレスレット、あるいは子どもの好きなオモチャにひもを結びつける。 2. 子どもがその物を手にとるために、ひもをひっぱらなければならないように、テーブルの上にひもを横たえておいて子どもに見せる。 3. 必要なら、ひもをひっぱって物を手もとに引きよせて、手にとる方法をやってみせる。
2	落ちた物を探す (6)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもをテーブルに向かって母親の膝に坐らせる。 2. テーブルの上で、まっすぐに、ゆっくりとスプーンを動かして行って、スプーンを床に落とす。 3. 最初は、物が落ちる時、音をたてるようにカーベットの敷いてない室でやってみる。 4. 子どもが落ちた物を探すかどうか注意する。 5. 使用する物を変えて、種々の状況でやってみる。 6. 子どもと「いない、いないばあ」や「かくれんぼ」をして遊んでみる。子どもがもし、捜すようなら、母親の顔や物を隠して捜させる。 7. 風呂の湯の中へ物を落としてみる。はねかえりの音(ぼちゃ、ざぶんなど)がするので、子どもが物が落ちた方に向くのを助ける。 8. ベビーイスの側面から、ひもをつけておいたオモチャを落とす。それから、子どもに見えるように引っぱりあげる。
3	物が提示されてから30秒以内に、おおいを持ち上げて、隠された物を見つける (8)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 逆さにしたコップ、ボール、小さい箱の下に、子どもの好む小さい物を隠す。 2. 子どもに隠す物と、それを隠すところを見せる。 3. 子どもに、「〇〇はどこかな。」とことばかけし、隠した物を見つけるために、容器を持ち上げるようにする。 4. 最初、物を部分的に隠し、その後、次第に完全に隠すようにする。子どもが見つけたら、「あった」と大げさによるこんでやる。 5. 手に物を隠す。子どもにそっとのぞかせて、指を閉じる。子どもが物を見つげられるかどうかやってみる。 6. 物の前に本かスクリーンを置く。子どもがそのあたりに手を伸ばすかどうかやってみる。
4	オモチャを見つけるためにその上におおいをする (8)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ビニールの風呂敷などの透明な布の下にオモチャを隠す。おおいを取るよう子どもにすすめる。 2. 手ぬぐい、タオル、ハンカチ、おしめなどの下に、いろいろな物を隠して、子どもがそれらを見つげられるかどうかをみる。 3. 子どもの注意をオモチャにひき、母親がそれを隠すところを見させる。
5	箱を与えると、物を見つけようとして箱をひっくり返す (10)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 色、形、大きさがさまざまな、小さい箱をたくさん集めておく。 2. オハジキ、さいころ、豆、ボタン、積木、のような小さい物を箱の中に入れて、子どもの前で箱の周囲をたたいてガラガラ鳴らす。 3. 小さい物をすばやく出して、子どもに箱を手渡す。 4. 物を見つけようとして、子どもが箱を見たり、中をのぞきこんだりするかどうかをみる。
6	布に包んだ物を示すと包みを解いて物を取り出す (11)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ティッシュペーパー、ペーパータオル、ハンカチ等に小さいオモチャや積木を包む。 2. 母親が物を包んでいるところを子どもに見せ、その後包みを解くように子どもにすすめる。 3. 最初は、たやすく解けるように物を部分的に包むだけにする。
7	箱のフタをとる (12)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもに箱を手渡し、フタをとるようすすめる。種々の形、

		<p>大きさの箱を使う。</p> <p>2. 子どもがフタをとりたくなるように、箱の中に子どもの大好きなオモチャあるいは食べ物を入れておく。</p> <p>3. この活動のために、ふたつきの鍋なども使ってみる。</p>
8	<p>手の届かないところにあるオモチャを取るために棒を使ってオモチャを引きよせる</p> <p>(18)</p>	<p>1. テーブルに向かって、または床に子どもを坐らせ、子どもの手の届かない所に、子どもの好きな小さくて軽いオモチャを置く。</p> <p>2. 短い棒(30cm位の丸くて細い棒)で、オモチャを自分の方に引きよせる方法を示してあげる。</p> <p>3. 何回も母親がやって見せてから、子どもにもやらせる。子どもの好きなオモチャだけを使う。</p> <p>4. 必要なら、子どもを身体的に援助し、次第に手助けをやめる。</p> <p>5. 棒を使って子どもがオモチャを引きよせ手にしたらほめてやり、そのオモチャで遊ばせる。</p> <p>6. いろいろなオモチャや他の棒でもやってみる。手の届かないところにあるものを取るために、自分のまわりにあるものを利用できることを子どもに教えるのによい。</p> <p>7. 枕の上にオモチャを置いて、オモチャをとるために枕を自分の方へ引っばる、あるいはひもが結びつけてある物の上にオモチャを置いてひもを引っばるなど、いろいろな状況でこの種の活動をさせてみる。</p>
9	<p>物の隠されているコップを選択する。</p> <p>(20)</p>	<p>1. 2～3個のコップ、あるいは他の容器のうちのいずれか1個の下へ小さいオモチャを子どもの見ている前で隠す。10～30秒してから、オモチャの隠されているコップで選択させる。</p> <p>2. オモチャを隠す位置を毎回変えて、コップの数も変える。</p> <p>3. 子どもが注意を集中できなかつたり、選択をまちがえるようなら、物を隠してから、選択するまでの間隔を短くする。</p> <p>4. 子どもが正しい選択をしたら、「○○あった。」と大げさに子どもと一緒に喜んであげる。</p>

言語

表出言語

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	<p>声を出す</p> <p>(1～2)</p>	<p>1. 子どもが声を出すように話しかける。入浴中、授乳中、おむつ交換、遊んでいる時などに、子どもに話しかける。</p> <p>2. 母親は、音の高低をつけて、簡単な音を含むことば(例えば、アブ、アババ、○○ちゃん)を大げさに話しかける。</p> <p>3. 子どもが声を出したら、体をさすったり、頬ずりしたりしてほめてあげる。</p> <p><援助の方法></p> <p>1. 子どもが少しでも声を出したら、母親がまねしてやり、もう一度声を出すように励ます。</p> <p>2. 子どもがお話しているように声を出している時、その中から一つの音を母親がまねしてやる。それをまた子どもがまねをする。</p> <p>3. 子どもがまだ出すことのできない音を、同じ方法で教える。</p> <p><記録の方法></p> <p>子どもの出した声を、「アア」「オーオー」のように記録する。</p>
2	<p>声をたてて笑う</p> <p>(3)</p>	<p>1. 体をゆすぶったり、頬ずりしたりしてあやす。</p> <p>2. 声を出して笑ったら、体を軽くたたいてほめてあげる。</p>
3	<p>2音節母音を発声する オーア、アーエ、アウアウ、 オエ</p> <p>(4)</p>	<p>1. 母親が子どもに話しかける際に、2音節母音を多く用いる以外は、表出言語シート番号1と同様な方法で行なう。</p>

4	ダ、バ、ガなどという 〔7〕	1. 母親が子どもに話しかける際に、「ダ」「バ」「ガ」などの音を含むことばを多く話しかける以外は、表出言語シート番号1と同様な方法で行う。
5	ママ、ダダダなど、母音と子音が連なった音を出す 〔7〕	1. 子どもと面と向き合って、母親が「ママ」「ダダダ」「パパバ」などの発声を繰り返す、子どもがまねするように励ます。 2. 母親の出した音を子どもがまねしたらほめてやる。 <援助の方法> 1. 母→子、子→母と繰り返す。
6	簡単な動作を模倣する 〔8〕	1. 子どもの前で簡単な動作をやってみせ、「やっごらん。」と言って、まねするように励ます。 2. まねができたらほめてあげる。 <援助の方法> 1. 日常生活場面で子どもがやっている動作（机をたたく、拍手をするなど）を、子どもがやった時、母親がそれをまねする。母親のまねを見て、再び子どもがまねをする。 子どもの動作→親がその動作をまねる→再び子どもが親の動作をまねる。 2. 母親が子どもに、新しい動作をしてみせ、「○○ちゃん、やっごらん。」と言う。
7	他の人（母親など）の言った音声をまねる 〔8〕	1. 子どもと向きあうように、子どもを抱く。 2. 子どもが母親の顔を見つめている時、アー、エー、オーなどの母音やママママ、ダダダ、パパバ、ソソソバと言ってやり、子どもがまねするように促す。 3. 1日数回行なう。 4. 子どもが出した声を、母親がまねして言う。 <記録の方法> 次のどれに該当するかを記入する。 ① まったく声が出ない。 ② 母親の口を見つめる。 ③ まねしようとして口を動かすが、声は出ない。 ④ 一部分まねをする。 ⑤ 完全にまねをする。
8	泣かないで、自分の要求を表わす（泣きではなく声や動作で自分の要求を示そうとする） 〔9〕	1. 子どもが何か欲しい時、数日間子どもを観察し、次のどの段階にいるか明らかにする。 ①欲しい物を見る ②ジェスチャーをする（指さす） ③声を出す ④ことばを言う <援助の方法> 1. 子どもが欲しい物を見た時、「何が欲しいの」と言い、それを指さし、名前を言ってあげる。子どもが動作で反応するようにさせる。 2. ジェスチャーで物を欲しがったら、「何がほしいの？」と言い、その物を指さし、名前を教える。次に名前の最初の音だけ言い、子どもにその音をまねさせる。
9	動物の鳴き声をまねする 〔10〕	1. 動物のおもちゃを見せて、動物の名前を教え、その鳴き声をまねしてみせる。 2. 子どもがまねするように呼びかける。 <記録の方法> 次のどれに該当するかを記入する。 ① 全然反応なし ② 興味を示し、まねしようとするが、声が出ない。 ③ 鳴き声をまねする。
10	ことばをまねする 〔11〕	1. 表出言語シート番号7と同一。 2. 表出言語シート番号7の①、②ができていない段階では、③子どもの知っている単語と同様に行なう。 3. 1日数回行なう。 4. 声が出たらほめてあげる。

		<p><記録の方法> 表出言語シート番号7と同一。</p>
11	意味のあることばをいくつか言う。音声からことばにする (12)	<p>1. 子どもの言える音が始めにあることばを選ぶ。まず、第1の音を言わせる。次に、第1の音と第2の音を言わせ、その次に第1、第2、第3の音を言わせる。 (例) 子どもが「ボ」という音を出せる時、教えることばを「ボウル」とする。まず始めに「ボ」、次に「ボウ」、その次に「ボウル」と言うように訓練する。</p>
12	物の名前を言う (13)	<p>1. 1つの物を子どもの前に見せる。子どもの気が散らないように不要な物は取り除く。 2. 母親がその物を子どもに見せて、「これは何ですか?」「これは〇〇ですね。」と教えてあげる。 3. 同じように、子どもに物を見せて、「これは何?」と尋ねて子どもが名前を言えるように励ます。 4. 名前を言えた時には、ほめてあげる。 5. 一度にあまり多くの物を教えない。</p> <p><記録の方法> 耳、手、目、口、足、スプーン、コップ、牛乳、みかん、バナナ、時計、などの項目について、名前が言えた日付を記入する。</p>
13	「これは何?」と尋ねると絵の名前を言う (14)	<p>1. 絵本や絵カードを用いて、日常見なれている事物を指さしながら「これは何?」と尋ねる。 2. 子どもが答えられなかったら、「これは〇〇ね」と教える。物の呼び方はいつも同じにして、一貫性をもたせる。 3. 一度にあまり多くの物を教えず、子どもが確実に物の名を言えるようになるまで練習する。 4. 名前を言えた時には、ほめてあげる。 5. 特定の絵本や絵カードで物の名前が言えるようになったら同じ事物が異なる色や大きさで描かれている絵でも行なう。</p> <p><記録の方法> 絵で事物の名前が言えたら、その項目と日付を記入する。</p>
14	ことばを言う (20語) (18)	<p>1. 日常生活で子どもが頻々に接する人や物に対して、母親が名前を言って聞かせる。子どもにも言うように促す。 2. 子どもが言えない時、表出語シート番号11と同様の方法で、言わせてみる。 3. 上記の方法で子どもが自発的に言えることばを増やす。</p>
15	絵の名前を言う (5個) (24)	<p>1. 表出言語シート番号13と同様の方法で、絵本や絵カードを用いて、日常見なれている事物を指さして、子どもに命名させ、子どもが自発的に言えるようにし向けていく。 2. 子どもが自発的に絵の名前を言ったら、「そうね、〇〇ね」と繰り返してから、ほめる。</p>
16	二語文を言う 「みかんほしい」「パパかいしゃ」など二語文が言えるようにする (24)	<p>1. 日常生活場面で、日課が二語文を使ってあげると子どもから「みかん」と単語だけ言った時、母親が、「みかんほしいの?」の様に、二語をつなぐ。 2. 子どもが二語文を言えたら、「そうね、みかんほしいの。」と、母親がもう一度繰り返す。</p> <p><記録の方法> 子どもが二語文を言ったら、それを日付と共に記入する。</p>

受容言語

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	音に反応する (1)	<p>1. 子どもの後ろで鈴をならしたり、ガラガラを振る。聞かせる音は、ガラガラ、拍手、笛、鈴などのさまざまな音や音楽、歌(レコード)など。 2. 1日数回、子どもが目覚めている時行う。</p>

		<p><記録の方法> 次のうちのいずれの支えであるかをシートに記入する。</p> <p>① 全く反応なし。 ② 体の動きが止まったり、手足を動かしたりする。</p>
2	人の声に反応する (1)	<p>1. 子どもの顔と向き合って、母親が声かけする。 2. 子どもがどんな声でも出したら、軽く体をたたいたり、微笑んだりしてほめてやる。 3. 子どもが気嫌の良い時、1日数回行う。</p> <p><記録の方法> 次のうちのいずれであるかをシートに記入する。</p> <p>① 全然反応なし。 ② 母親の目、顔を見つめる。 ③ 声を出す。</p>
3	音の方へ首を回す (2)	<p>1. 子どもには、見えない方向から種々の音（ガラガラ、タイコなど）をならす。その方向に頭を向けさせる。 2. 自分から首を回すことができない時には、その方向に頭を回してあげる。 3. いろいろの方向から、種々の音を聞かせる。 4. ふり向いたら、音をもう一度聞かせてやり、ほめる。 5. 1日数回行う。</p> <p><記録の方法> 次のうちのいずれであるかをシートに記入する。</p> <p>① 音がしても首を回さない（頭を手でもってふり向かせる）。 ② 少しのプロンプト（頬に手を触れて）で、ふり向くことができる。 ③ 完全にできる。</p>
4	人の声のする方を向く (3)	<p>1. 少し離れた所から子どもの名前を呼ぶと、自分からふり向くようにする。 2. できない時には、頭をもって首を廻してあげる（母親が子どもを抱き、父が呼びかけ、母親が子どもの首をまわす）。 3. いろいろな方向から声をかける。 4. 声のする方を向いた時には、もう一度呼んでやり、ほめる。 5. 1日数回行う。</p> <p><記録の方法> 受容言語シート番号3と同一。</p>
5	音楽や歌に聞き入る (5)	<p>1. 子どもがくつろいでいる時、音楽や歌を聞かせる。 2. 子ども、姉弟、父母の名前や犬、猫などをおりこんだ歌を歌ってきかせる。</p> <p><記録の方法> 次のうちのいずれであるかをシートに記入する。</p> <p>① 反応なし。 ② 歌をうたったりすると、じっと聞き入り、母親の目や口をじっと見つめる。</p>
6	自分の名前がわかる (9)	<p>1. 日常生活場面で、時々名前を呼んであげる。</p> <p><援助の方法> 1. 父親が子どもの名前を呼び、母親が、「○○ちゃんて、呼んでるよ。」などと言ってふり向かせ、父親が子どもを抱いてあげる。</p> <p><記録の方法> 次のうちのいずれであるかをシートに記入する。</p> <p>① ふり向く。 ② ふり向かない。</p>
7	「いけません」「みてごらん」ということがわかる (9)	<p>1. 危険なことや望ましくないことを子どもがしようとしている時に、「いけません。」と強く言って、子どもがしていることをやめさせる。</p> <p><援助の方法> 1. 「いけません」と言いながら、首を横にふって、子どもがし</p>

		<p>ていることをやめさせる。</p> <p>2. やめたら、ほめてあげる。</p>
8	<p>日常生活で見聞きしているものの名前を言われるとそちらの方を見る (10)</p>	<p>1. 「パパはどこ？」「〇〇はどこにあるかな？」などの質問をして、子どもがそちらの方を見るようにする。</p> <p><援助の方法></p> <p>1. できない場合、指示した物の方へ子どもの首をまわしてやり、見させる。そして「〇〇は、ここに、あるでしょう。」と確認させる。</p> <p>2. 父親や祖母の場合は、「パパですよ」などと言って抱いてやったり、手を握ってあげる。</p> <p><記録の方法></p> <p>完全にできるものの名前を、日付とともにシートに記入する。</p>
9	<p>「ちょうだい」と言うように手に持っているものをくれる (12)</p>	<p>1. 日常生活の中で、子どもが持っているものを、「〇〇をちょうだい」と言って、渡すように促す。</p> <p>2. 渡したらほめてあげる。</p> <p>3. 1日数回行なう。</p> <p><記録の方法></p> <p>次のどのようであるかをシートに記入する。</p> <p>① ちょうだいの意味が、全然わからない。</p> <p>② 10回のうち2～3回指示に従える。</p> <p>③ 完全に理解して、指示に従える。</p>
10	<p>「〇〇はどこ？」と尋ねると、指で示す (12)</p>	<p>1. 「〇〇はどこ？」と尋ねると指で示す。</p> <p><援助の方法></p> <p>1. できない場合、母親が指でさし、「ほら、〇〇はここにあったね」と教える。</p> <p>2. 数個のものについて、1日数回教える。</p> <p>3. 正しく指した時には、ほめる。</p> <p><記録の方法></p> <p>次のどのようであるか、教える項目の名前をともにシートに記入する。</p> <p>① 援助が必要。</p> <p>② 10回のうち2～3回できる。</p> <p>③ 完全にできる。</p>
11	<p>簡単な命令がわかる (13)</p>	<p>1. 子どもが日常見聞きしていて、物の名前と実物との対応関係がほぼ理解できている物や人（お父さん、ミカン、おしめなど）に関して簡単な指示をする（例えば「おしめ、もってきなさい。」「お父さんのところへ行きなさい。」）。</p> <p><援助の方法></p> <p>1. できない場合、指示をしながら母親がその動作をして見せて、子どもに母親の動作をまねさせる。</p> <p>2. 指示に従えれば、子どもをほめる。</p> <p><援助の方法></p> <p>できない場合、母親が子どもと一緒に指示の動作を行い、次第に指をさして教えるだけにし、その後、ひとりで指示に従わせる。</p>
12	<p>体の部分を指さす（1部分） (15)</p>	<p>1. 「おめめはどこ？」「あたまはどこ？」と尋ねると、子どもが目や頭を指す。</p> <p><援助の方法></p> <p>1. できない場合、子どもと向き合った姿勢で、「おめめはどこ？」と尋ね、子どもが指ささなかったら、「ほら、おめめはここでしょう。」と言って教える。</p> <p>2. 1日、1部分から少しずつ増やして教える。</p> <p><記録の方法></p> <p>受容言語シート番号10と同一。</p>
13	<p>絵本を「ワンワンどこ？」と尋ねると指さす（3～4個） (15)</p>	<p>1. 絵を見せて、「〇〇はどこ？」と尋ね、子どもに指でさすよう促す。</p> <p><援助の方法></p> <p>1. できない場合、子どもの手を持ち、絵を指して「〇〇はここ</p>

		にあるね。」と教える。 <記録の方法> 受容言語シート番号10と同一。
14	名前を言われ物を指す (15)	1. 子どもの前に、コップとスプーンを置く。 2. まず、母親が、「これはコップですよ。」「これはスプーンですよ。」と指さして教える。 3. 次に、「○○ちゃんコップはどれ？」と質問して、子どもに指ささせる。 4. 2つの物から始めて、3つ、4つ、5つと増やしていき、選び出させる。 <記録の方法> できた項目と、日付をシートに記入する。
15	要求された動作を行う (18)	1. 「手をたたきなさい。」「手をあげなさい。」「立ちなさい。」のように、日常生活で子どもがよくおこなう動作を選んで、言葉のみで指示する。 2. 指示に従ったらほめる。 <援助の方法> 1. できない場合、指示をしながら母親がその動作をして見せて子どもに母親の動作をまねさせる。 <記録の方法> ことばだけで要求した動作ができたならその動作と日付を記入する。
16	人形の身体の部分を指す (21)	1. 子どもと向い合って坐る。人形に興味を持たせた後、「お人形のおめめはどれ？」と尋ねる。目、口、耳、鼻、手、足、首など教える。 <援助の方法> 1. できない場合、子どもの手をとって示し、「おめめはこれですよ。」と教える。 2. 1度に教えないで、少しずつ増やしていく。 <記録の方法> 受容言語シート番号10に同一。
17	物の名前を尋ねると指でさす(実物と絵で7~8個) (24)	1. 子どもの前に実物(例えば、コップ、みかんなど)を置き、「コップはどれ？」と尋ねる。実物ができたら、絵本の絵を指すように教える。
18	赤、青など2色以上の名前がわかり正しく指す (24)	1. 子どもに、「赤はどれ？」と尋ねて、子どもが赤色を指したらよい。 <援助の方法> 1. できない場合、母親が子どもに、「これは赤い色ですよ。」と教える。 2. 日常生活のさまざまな場面で、「赤」「青」などのことばを親が教える。 <記録の方法> 受容言語シート番号10と同一。
19	上、中、下のうち一つの意味がわかる (24)	1. 「これを机の上に置きなさい。」「○○の下へ置きなさい。」「箱の中へ入れなさい。」などのことばだけで、上、中、下の意味がわかり指示に従う。 <記録の方法> 受容言語シート番号10と同一。
20	「立って手を上げなさい。」など二つの動作に従える (24)	1. 「立って、手を上げなさい。」のように二つの動作の指示に従うように教える。 <援助の方法> できない場合、母親がその動作のモデルを示して子どもに教える。

社会 身辺自立

愛着行動

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	母親の微笑んだ顔を見て笑う (3~5)	1. 子どもと接する時、いつも視線を合わせて微笑むようにする。子どもが話しかけたり、笑ったりして反応を示したら、ほめる。 2. くすぐって子どもが笑ったら、ほめる。
2	ひとりにされたり、床におろされたり、見知らぬ場所ではむずかるか泣く (3~5)	1. 抱いている時、床に置いてみて、むずかるか、泣き出すかどうかを観察する。子どもの要求は世話をして解決してやるが、むずかるといつも抱いてもらえると感じとられないように接することが大切である。 2. 見知らぬ環境の中に入れた時、子どもが安心するように、しっかり抱いたり、話しかけたりする。ひとりで置いたりする前に、その環境になじませる。 3. 最初は、親しい人や慣れた環境から行う。これは社会的な発達のために大切である。
3	親しい人に抱かれようとして両手を差し出す(1) (3~5)	1. 子どもを抱き上げる時は、名前を呼び、視線を合わせ、両手を優しく握ってから、腋の下を支えて抱き上げる。 2. あおむけに寝ている時に、母親の両手を子どもの前に差し出して、子どもが両手をのばすように呼びかける。この時、母親は、子どもの反応をゆったりとした気持ちで待つ。 <援助の方法> 1. 全面介助(子どもの両手をとる) 2. 部分介助(軽く腕に触れ、手を伸ばすように励ます) 3. 介助なし
4	親しい人に抱かれようとして両手を差し出す(2) (3~5)	1. 首のすわりがしっかりしてきたら、子どもが腕を伸ばして母親の手をしっかり握った時、坐位になるようにゆっくりと起こす。 2. 坐位へ起こした時に、首が後方へ急にのけぞらなくなる程首のまわりがしっかりしたら始める。
5	大人が笑いかける前に、子どもが微笑む (3~5)	1. 子どもが先に微笑むような機会をつくる。 2. 子どもが母親の顔を見て微笑んだら、優しく笑ってほめる。もし、1分たっても微笑まなかったら、母親が微笑んで見せて、まねをするように促す。
6	母親が部屋に入った時や横切る時に、母親の顔を見る (3~5)	1. 家の中を歩いて子どもに近づく時や、遠ざかる時に、子どもの名前を呼んで、母親がどちらの方向に行くかに注意させる。 2. 母親は、部屋のおちこちに立ったり、隠れたりして、「○○ちゃん、お母さんはどこ?」と何度か呼びかける。子どもが反応して母親の方を見たら、傍に行き優しくほめてあげる。 3. 始めのうちは、子どもの近くで行い、次第に距離を離していく。
7	大人が子どもに話しかける時、子どもが大人の顔を見る (3~5)	1. 子どもに話しかける時、子どもの名前を呼び、子どもの顔を親の顔の方へ向ける。 2. 子どもと確実に視線を合わせて、話をする。
8	見知らぬ人が近づいた時顔をそむけるか、泣き出す (6~8)	1. 多くの人に会って、抱いていただく機会をもつ。 2. 新たな人や場所に慣れるために、十分時間をかける。見知らぬ人が来ると顔をそむけるか、泣き出すようになる。 3. 見知らぬ人が傍に居るのを強要しない。
9	知らない場所で母親から離れた時、ぐずるか泣き出す (9~11)	1. 子どもを買物や友人の家など、自分の家から外へ連れ出す機会をもつ。 2. 社会的な経験を多く得る程、母子分離が上手に行える。
10	遊んでいる時に、何度も母親がいることを確かめようとする (16~19)	1. 家のまわりや公園などに連れて行き、危険がないことを確かめてから、母親から離れているいろいろな場所へ行くよう呼びかける。 2. 母親は、子どもから見える所において、子どもが要求する時、

		優しく応じてあげる。
11	子どもは大人に抱かれようとする反面、時々大人から逃げようとする 〔20～23〕	1. この時期は、子どもが母親の手を借りずにひとりで何かができることを認識し始める大切な時期である。母親は、子どものこのような心の芽ばえを上手に育てるよう心がける。 2. 子どもを公園や家の外などに連れていき、子どもがひとりで何かをしようとしている時は、ひとりにして見守ってあげる。子どもが助けを求めてきたら、言葉かけて励ましたり、優しく抱いて慰めてあげる。

社会的遊び

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	くすぐったり、体を軽くゆすられると笑う 〔3～5〕	1. 胸、足、首などをくすぐったり笑ったり、話しかけたりする。子どもが笑ったら繰り返す。 2. 母親の胸に抱いたり、両膝の上で子どもを上下に動かす。子どもが笑ったら、繰り返す。 3. 子どもの顔を横から支えて、母親の顔に近づけて、軽く息をふきかけたり、耳の近くで口笛を吹いたりする。また、くすぐるような声で話しかける。笑ったら繰り返す。
2	少し荒々しく振り回すと喜んで声を出したり、笑ったりする 〔3～5〕	1. 子どもをしっかり支え、「高い高い」をゆっくりする。 2. ゆっくり振り回す。 3. 母親は床の上にあおむけに寝て、子どもに母親の顔が見えるように胸の上に抱くか、子どもをあおむけにして母親の膝の上に乗せ、「高い高い」をする。 4. 子どもが笑ったり、声を出したら、母親は声かけ、頬ずりなどして喜びを表わす。
3	鏡に映った自分に手をのばしたり、指でさわったりする 〔6〕	1. 子どもの姿が鏡に映って見えるように、子どもの視野の中に鏡を置く。割れない鏡ならベッドの中に、又割れるものは子どもを机に向かって坐らせ、机に置く。 2. 子どもが興味を示さなかったら、母親が鏡に映っている子どもを指して、「〇〇ちゃん、見てごらん、〇〇ちゃんがいるよ。」と言って興味をもたせる。
4	「イナイ イナイ バア」遊びをする(1) 〔6～8〕	1. 子どもの正面で「イナイ イナイ バア」や「チョチ チョチ」をして見せ、子どもが喜んだら、また繰り返す。 2. 子どもの顔をタオルでおおい、「〇〇ちゃんは、どこかな?」と呼びかけ、タオルを取り除く。次第に子どもが自発的にタオルを取り除くようになる。 3. 母親の顔をタオルでおおい、子どもが母親の顔を捜し出すように呼びかける。できたら、抱き上げてほめる。 4. 椅子や家具のかけに隠れて「イナイ イナイ バア」しましょう。
5	「イナイ イナイ バア」遊びをする(2) 〔9～11〕	1. 手を動かして遊ぶ。 2. 「〇〇ちゃんは、こんなに大きいね。」と言いながら、子どもの両腕を上を持ち上げる。 3. 「イナイ イナイ バア」をまねするように励ます。 <援助の方法> 1. 腕をとってやらせる。 2. 例示して、始め少しだけ手伝う。 3. 介助なし。
6	「チョチ チョチ」遊びをする(3) 〔9～11〕	1. 子どもと向き合って坐り、「チョチ チョチ」と言いながら、両手をたたいて見せる。 2. 母親がやってみせ、子どもの手をとって「チョチ チョチ」と言いながら両手で打たせる。 3. 次第に母親の手助けを少なくし、自分一人でするように励みます。

		<p><援助の方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全面介助。 2. 部分介助（軽く腕を内側へ押す） 3. 介助なし。
7	<p>子どもの声や動作に母親が笑いかけると、子どもはそれを繰り返す (9~11)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもがかわいい仕草や、おかしな動作を見せたら、母親は声を出して笑ってみせ、もう一度やるように促す。 2. 子どもが発した声をまねして聞かせる。その声を聞いて子どもが繰り返して声を出したらほめる。
8	<p>他の子どもと遊ぶ (10~16)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもは、他の子の髪を引っぱったり、つねったり、物を横取りするなど、他人と何らかのかかわりをもつようになる。 2. 子どもと同年齢の他の子どもと一緒にいる機会を時々設け、二人で遊べるおもちゃなどを与える。 <p><援助の介助></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもを同年齢の子どもと一緒にいる機会を設け、母親が子ども同志の遊びの媒介となる。 2. 子ども二人で遊べるように、おもちゃなどを渡し、二人で遊ばせる。
9	<p>おもちゃや食べものを手渡す (12~15)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもにお気に入りのおもちゃを渡す。それから、手を伸ばし、「○○ちゃん、おもちゃを見せてちょうだいね。」と言う。「ありがとう。」と言って、子どもからおもちゃを受けとり、すぐに「どうぞ」と言って子どもにおもちゃを返す。 2. 食事の時、子どもの皿にある食物を、1つくれるように言う。子どもが差し出した食物を、母親の皿で受け取り、母親の皿にある食物を1つ子どもにあげる。 <p><援助の方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの手から取って、母親がもらう。 2. 片手で子どもの腕を母親の方へ引き、片手を「ちょうだい」と言って差し出す。 3. 介助なし。
10	<p>ボール遊びをする (12~15)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの手が届く場所にボールを置き、偶然子どもの体が触れ、ボールが転がったら、「ボール遊びが上手ですね。一緒にボール遊びしましょうね。」と言って、ボールを返す。 2. 子どもと向いあって約60cm離れて坐り、ボールを転す。もし子どもがボールを返せなかったら、父親に子どもの後ろに坐ってもらい、子どもがボールを転すのを手伝ってもらう。 3. 子どもが最も使いやすいボールを見つけるため、使うボールをいろいろ変えてみる。
11	<p>いろいろな遊びをする (18)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 丈夫な包装紙を子どもに与えて、引っ張ったり、たたいたり、もんだり、破いたりする遊びを一緒にする。 2. 大きな鏡の前で遊ばせ、子どもの肩越しに母親の顔を見せる。 3. 父親とお馬さん遊びをする。 4. おもちゃのタイコや木琴などの音の出るおもちゃで一緒に遊ぶ。 5. 母親が子どもの手と櫛を持って、最初母親の髪を、次に子どもの髪をとかす。
12	<p>おもちゃをひっぱる(1) (18)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもが歩き始めたら、部品がはずれたり、角がとがったりのない安全な、ひっぱるおもちゃを与える。 2. 子どもにおもちゃのひっぱり方を教える。子どもの注意をひくために、おもちゃを速くひっぱってみせる。 3. 子どもがひとりのできるようになるまで、子どもの脇に沿って歩き、子どもがおもちゃをひっぱるのを助ける。 <p><援助の方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手をとってひっぱるのを手伝う。 2. 最初、少しだけひっぱるのを手伝い、後は子どもにさせる。 3. 介助なし。
13	<p>おもちゃをひっぱる (18)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 坐っている場所から、おもちゃをひっぱる練習をさせる。母親が傍でやってみせ、まねさせる。

		2. 動く時に音のするオモチャや動き方のおもしろいオモチャを選ぶ。 <援助の方法> 社会的遊びシート番号11と同一。
14	他の子どもが遊んでいる傍で遊ぶ(1) (24~27)	1. 公園、園庭、校庭、友人の家などに連れて行って、他の子どもと遊ぶ機会を多くもつ。 2. 他の子どもと一緒に遊ぶように呼びかける。 3. もし、他の子どもと遊ばなくても心配しないように。他の子の傍で遊ぶのがこの年齢の子どもに典型的なことだから。
15	他の子どもが遊んでいる傍で遊ぶ(2) (24~27)	1. 子ども達が遊んでいる場面を見せ、その中の1人の子どもの名を呼んで、あなたの子どものを紹介し、仲間に入れてもらう。年上の子どもが、あなたの子どもの面倒をよくみてくれるだろう。 2. 子どもには自分のオモチャを持たせておき、他の子どもからオモチャを借りないように気をつける。 3. 母親は、優しく子どもの遊ぶ姿を見守り、子ども同志のやりとりによりあまり口をはさまない。

食 事

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	ミルクの飲み方が悪い場合の援助の仕方 (3~5)	1. ミルクの吸い方が悪い場合、スプーンを使ってみる。 2. 乳首の吸い方が上手でない場合、まず子どもが空気を吸い込まないように、哺乳瓶を十分に傾ける。子どもが舌や口唇で乳首を封印してしまってミルクがでなくなる場合があるので、この時口の端から端へ乳首をまわしながら哺乳瓶の中に空気の泡が昇ってくるようになるまで動かす。
2	乳房、哺乳瓶がわかり見ると手をのばす (3~5)	1. 子どもの口の方に、ゆっくりと乳房、哺乳瓶を近づけ、子どもがそれを見て手をのばす機会をつくってあげる。 2. 手をのばさない時には、子どもの手を哺乳瓶、乳房に添えて口の中に入れてあげる。
3	食事の時間を予期して頭や手足を動かしたり、声を出して喜びを表わす (3~5)	1. 子どもが食事を予期しやすいように、いつも同じ場所、同じ姿勢で食事をさせる。 2. 子どもの食事への反応が増えるかどうか、また食事にご飯を見せて、食事への反応が高まるかどうかを観察する。 3. 子どもをまっすぐに立てて、抱いて授乳する。授乳が済むとベッドでおなかの両側か胃を軽くなでてあげる。
4	スプーンから粥状や半糊状の食物を吸って飲みこむ(1) (3~5)	1. 空腹時に、濃いめのおもゆに浸したおしゃぶりを、子どもの口にもってゆき、吸わせてみる。 2. 粥状の食物が通るくらい大きさの穴の乳首に粥状の食物を入れ、吸わせてみる。
5	スプーンから粥状や半糊状の食物を吸って飲みこむ(2) (3~5)	1. 空腹時、ミルクを与える前に、粥状の食物をスプーンで与えて、吸うように励ます。うまくできた時にはほめる。 2. スプーンをのみこんでしまうようなら、口の横からスプーンを入れてやる。
6	スプーンから粥状や半糊状の食物を吸って飲みこむ(3) (3~5)	1. 粥状、半糊状の食物を1回に少しずつスプーンにのせて、何度も与えてみる。 2. すりつぶしたリンゴ、モモ、梨、じゃが芋、人参など、いろいろな食物を与えて、好き嫌いをなく食べるようにする。 <援助の方法> 1. 飲みこもうとする時、あごから候の方へ軽くなでおろす。 2. 嫌いな食物には、始めは好きな物をまぜて与える。
7	支えなしで哺乳瓶をもち飲むことができる (6~8)	1. ビンを与える時、子どもの手をビンのまわりに置くように手を添えさせる。両手が無理なら、片手だけでも添えさせる。 2. ひとりでビンが持てるように、少しずつ母親の介助を減らしていく。

		<p>3. 種々のビン（プラスチックのビンなど）を使ってみて、どれが一番良いかをみる。ビンに飲み物をいっぱいに入れないで$\frac{1}{3}$位が良い。</p> <p>4. ビンを落とした時、最初と同じ方法でビンを持たせる。</p>
8	助けられてコップから飲むことができる(1) 〔6～8〕	<p>1. 子どものお気に入りのコップに、少量の飲み物を入れ、母親が子どもの手をとって、コップの取っ手を握らせ、少しずつ口に運ばせてあげる。</p> <p>2. 種々のコップを使ってみる。左右に取っ手のついた、直径5～10cm位のコップが適切。</p> <p>3. コップを傾けた時、子どもが必要な量を調節できるように、蓋付きのコップを使用するとよい。</p>
9	助けられて、コップから飲むことができる(2)	<p>1. 喉がかわいている時、コップを見せる。</p> <p>2. 最初はお気に入りのコップに好きな飲み物を入れてあげる。始めは、粘りのあるどろどろした飲み物を用いる。非常に甘い物や酢っぱい物は、唾液が沢山出るのでさけた方がよい。</p> <p>3. 子どもの後ろか横に坐わり、カップを少しずつ傾向けてあげる。</p> <p><援助の方法></p> <p>1. 唇が下側の歯をおおい、コップの縁が上側の歯と触れあうように、コップは下唇の上に置く。</p>
10	食物をかむ動作ができる(1) 〔6～8〕	<p>1. 始めは、バナナ、マッシュポテトなどの柔らかい食物を与える。</p> <p>2. 母親は、子どもにかむ動作をして見せ、まねするように励まし、子どもがかむ動作をしている時は、「ウマウマ」と声をかけてあげる。</p> <p>3. 食物が口の中にある時には、頬をなであおしてあげる。</p>
11	食物をかむ動作ができる(2) 〔6～8〕	<p>1. 食事シート番号10が上達したら、種々の色ざわりの食物を与える。</p> <p>2. チーズ、パンの耳、ウエハースなど、次第に舌ざわりのある食物に変えていく。</p>
12	手を使ってひとりで食べる(1) 〔8～10〕	<p>1. 子どもにビスケット、クラッカーなど、好きな食物を手を持たせ、その手を口の方へ動かしてやる。必要なら手を口までもって行ってやる。</p> <p>2. 遊び食いが増えるので、食事は20～30分位で切りあげるようにし、副食を多く与えるように心がける。</p>
13	手を使ってひとりで食べる(2) 〔8～10〕	<p>1. お盆に、子どもの大好きな食物の小片を置き、食物をつかんで口の中へ入れる方法をやってみせ、子どもにもさせる。必要に応じて介助する。</p> <p>2. スティック状の食物を用いるのもよい。</p>
14	スプーンや口角についた食物をなめてとる(1) 〔9～11〕	<p>1. 上顎や頬の内側にウエハースなどの食物の小片をつけてやり、これを舌でとらせてみる。</p> <p>2. あまり甘い物や酢っぱい物は、唾液が出るので避ける。</p>
15	スプーンや口角についた食物をなめてとる(2) 〔9～11〕	<p>1. ソフトクリームなどの子どもの好物を使ってみる。</p> <p>2. 母親が舌を突き出して、なめる方法を見せて、子どもにもさせる。</p> <p>3. 鏡に映してみる。</p> <p>4. 上記1.2が可能になったら、ハチミツ、バターピーナッツなどを子どもの口角につけて、なめる練習をする。</p>
16	コップをもってひとりで飲む(1) 〔12～14〕	<p>1. 喉がかわいている時、蓋のない子ども用コップに好物の飲み物を$\frac{1}{3}$程入れる。</p> <p>2. コップをもって、口へ運ぶの手伝う。</p> <p>3. 液状ヨーグルトのような粘りのある飲み物から始める。</p> <p>4. あまり甘いジュースは用いない。</p>
17	コップをもってひとりで飲む(2) 〔12～14〕	<p>1. 次第に介助を減らして、できるだけ自分の力で飲むようにさせる。</p> <p>2. コップに$\frac{1}{3}$以上入れて飲ませてみる。</p>

18	コップをもってひとりで飲む(3) [15]	1. テーブルの上からコップを取り上げ、口にもって行って飲み飲み終わったらテーブルの上にコップを戻すという一連の動作をなるべく子どもひとりで全部できるよう励ます。
19	沢山こぼすが、ひとりでスプーンを使って食べる(1)	1. 子どもの好物で、マッシュポテト、リンゴのすりおろし、プリンなどの粘りのあるスプーンにのりやすい食物から始める。スプーンは平たく、柄の短い、子ども用の物がよい。 2. 子どもの後ろか後に坐り、スプーンで食べさせる一方、子どもにも別のスプーンをもたせ、食物をのせてやり、何度かひとりで食べるよう介助する。
20	沢山こぼすが、ひとりでスプーンを使って食べる(2)	1. 子どもの後か横に坐り、子どものスプーンに粘りのある食物をのせ、子どもがスプーンを口へもっていくよう援助する。 2. 口に運んだスプーンの中味がなくなって気が移るのを妨ぐために、次の方法で積極的に食事行動を促す。 ① 1つのスプーンの中味がなくなると、次のスプーンを他方の手に渡す。 ② 2つ目のスプーンも空になり、両手に空のスプーンをもっているところに、3つ目のスプーンを差し出す。 ③ 子どもは、空のスプーンを手放して、3つ目のスプーンを手にとる。これを、皿が空になるまで続ける。 <援助の方法> 1. 手首をもち介助 2. 前腕をもち介助。 3. 肘をもち介助。
21	沢山こぼすが、ひとりでスプーンを使って食べる(3)	1. 子どもが、自分でもっているスプーンから食べられるようになったら、ひとりで皿から食物をすくうよう、横か後ろから手伝う。 2. スプーンに沢山の食物が入りやすいように、フードガードを使うとよい。
22	食べられる物と食べられない物との区分ができる [16~19]	1. 食べられない物を口にもっていったら取りあげて、「だめですよ。」と言ってやめさせる。 2. 類似した食べられる物と食べられない物を同時に見せて、食べられる物を口に入れたり、食べられない物を手にもって遊んだらほめる。
23	吹く動作ができる(1) [16~19]	1. 少し大げさに口をすぼめて、吹く動作を子どもに見せ、まねさせる。 2. 空中でティッシュペーパーを吹いてみせ、子どもにまねさせる。 3. ろうそくの火を吹き消したり、コップに水を入れて、ストローであぶくをたててみせ、まねさせる。ろうそくやマッチは子どもの手の届かない所に置く。
24	吹く動作ができる(2) [16~19]	1. 熱いスープや煮物を口でふいてさまざま動作を母親がやって見せ、子どもにもまねさせる。 2. 洗面器や子ども用プールに水を入れ、紙などでできた舟のオモチャを浮かべ、吹いて移動させる遊びを一緒にやって、吹く練習をさせる。 3. ひとりで吹けるようになれば、少し熱い食物を与える時、「フーフーしてから食べなさい。」と言って、ひとりで吹いてまねさせる。
25	吹く動作ができる(3) [16~19]	1. 洗面器やプールに水を入れ、紙などでできた舟のオモチャを浮かべ、吹いて移動させる遊びを一緒にやる。 2. しゃぼん玉をつくるように、ストローをもってやり、吹いて見せまねさせる。
26	ストローを使って上手に飲む [19]	1. 新しい乳首や小さな穴の乳首の哺乳ピンを使用して、吸う力を強めてあげる。 2. 食事中に口をすぼめて「チュチュ」や「ムム」を発音させたり、舌うちさせたりする。 3. 飲み物をストローで与え、ストローで上手に飲む練習をする。

27	食物をむいて食べる(1)	1. ろう紙やセロファンで小さな食物をおおざっぱに包んだものから、中味を取り出して見せ、子どもにそうするように促す。 2. 「中に何が入っているのかしら？」などの声かけをしながらやってみるとよい。
28	食物をむいて食べる(2)	1. 飴を包んである紙のねじりをゆるめて子どもに手渡し、その後ひとりで取り出させる。 2. バナナの皮を半分位むいて手渡し、その後ひとりでむくよう促す。
29	食物をむいて食べる(3) (20~23)	1. ひとりで飴の包みをとったり、バナナなどの果実の皮をむいて食べることができるように励ましてあげる。

着 脱

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	着脱時に、手足を差し出すことによって協力する(1) (12~15)	1. 子どもに着脱に協力する機会を与える。 2. 子どもに下着や上着をきせる時、子どもの腕の上にそでをもっていき、そでの方に手をあげさせる。 3. 子どもの足のそばに、靴やソックス、ズボンをもっていき、その方向に足を出すように励ます。 <援助の方法> 1. 全面介助(手足を手引きして動かさせる)。 2. 部分介助(声をかけながら、軽く手足に触れ、協力させる)。 3. 介助なし。
2	着脱時に、手足を差し出すことによって協力する(2) (12~15)	1. 子どもに下着や上着を着せる時、体を動かしたり、触れたりして、体の名称を教える。 2. 子どもに名称を言い、その部分を動かし、協力するよう励ます。
3	着脱時に、手足を差し出すことによって協力する(3)	1. 子どもの手足を少しだし、衣類に入れておき、子どもが協力して手足を動かすように促す。 2. 「いないいないばあ。」などの遊びを入れて行なうとよい。
4	帽子、ソックス、靴などの簡単な衣類を脱ぐ(1) (12~15)	1. 帽子を使って、「いない いない ばあ。」をして遊ぶ。 2. 少し大きめの帽子を用いる方がよい。
5	帽子、ソックス、靴などの簡単な衣類を脱ぐ(2) (12~15)	1. ソックスを途中まで下げておき、最後まで脱ぐように促す。時間をかけてやらせ、やり終えたらほめてあげる。 2. 靴を途中まで脱がせ、最後まで脱ぐよう促す。 <援助の方法> 1. 全面介助(手をとってやらせる)。 2. 部分介助(子どもの手を衣類の方へもっていき、その後自分でやらせる)。 3. 介助なし。
6	帽子、ソックス、靴などの簡単な衣類を脱ぐ(3) (12~15)	1. 衣類を脱ぐようことばかけし、うまくできたらほめる。 2. 必要に応じて母親がソックスを脱ぐことを、子どもの横で一緒にやってみせる。
7	大きなファスナーの上げ下げができる (20~23)	1. 少なくとも15cm位の大きなファスナーを用いる。 2. ファスナーが容易に動くように、石鹸を塗ったり、ファスナーのつまみにリングや玉を結びつける工夫をする。 3. 子どもにファスナーの上げ下げをやってみせ、子どもの手をとって一緒にやらせる。 <援助の方法> 1. 全面介助(手をとって一緒にやる)。 2. 部分介助(肘をもってやるように促す)。 3. 介助なし。
8	大きなファスナーの上げ下げができる(2) (20~23)	1. ファスナーがついている箱を作り、その中に子どもの好きなおもちゃやアメを入れておき、ファスナーをあけて中の物をとるように促す。

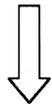
		<p>2. 大きなファスナーボードをつくり、上げ下げをやってみせ、子どもにもさせる。</p> <p><援助の方法></p> <p>1. 全面介助（手をそえて一緒にやる）。</p> <p>2. 部分介助（途中まであけてやるか、手を添えてやり、その後子どもにやらせる）。</p> <p>2. 介助なし。</p>
9	<p>大きなファスナーの上げ下げができる(3)</p> <p>(20~23)</p>	<p>1. 子どもが着ている服の大きなファスナーをひとりで上げ下げするよう励ます。</p> <p>2. スナップのはずし方を示してやらせる。</p> <p><援助の方法></p> <p>着脱シート番号8と同一</p>
10	<p>スリッパや靴をはこうとする(1)</p> <p>(20~23)</p>	<p>1. 靴に足を入れることを教えるために、空き箱に子どもの足を入れさせる。</p> <p>2. 大きめのスリッパや靴を使い、ごっこ遊びをさせる。</p>
11	<p>スリッパや靴をはこうとする(2)</p> <p>(20~23)</p>	<p>1. 母親がスリッパや靴をはいてみせ、子どもに大きめのスリッパや靴でまねしてはかせる。この場合、靴の左右はわからなくてもよい。</p>
12	<p>スリッパや靴をはこうとする(3)</p> <p>(20~23)</p>	<p>1. 子どもが靴をはく時、母親ははきやすいように、靴の入口を大きく広げてあげる。</p> <p>2. はくようにことばかけし、次にやらせる。上手にできたらほめる。</p>
13	<p>ひとりで衣類を脱ぐ(下半身)(1)</p> <p>(20~23)</p>	<p>1. スポン、スカート、パンツを足首まで下げさせる。</p> <p><援助の方法></p> <p>1. 全面援助（手をもってさげさせる）。</p> <p>2. 部分介助（途中まで手をそえて下げさせる）。</p> <p>3. 言語指示（ことばかけで下げさせる）。</p>
14	<p>ひとりで衣類を脱ぐ(下半身)(2)</p> <p>(20~23)</p>	<p>1. 坐って、スポン、スカート、パンツを足首から脱ぎとらせる。</p> <p><援助の方法></p> <p>1. 全面介助（手を添えてぬぎとらせる）。</p> <p>2. 部分介助（片足だけ、または途中まで手を添える）。</p> <p>3. 言語指示（ことばかけでぬぎとらせる）。</p>
15	<p>ひとりで衣類を脱ぐ(上半身)(3)</p> <p>(20~23)</p>	<p>1. バンザイをさせ、下端をもって途中まであけてやり、後はひとりで脱がせる。</p> <p>2. 衣類によっては、えり首をもって途中まであけてやり、後はひとりで脱がせる。</p> <p><援助の方法></p> <p>1. 全面介助（子どもの手で端をつかませ、その手をもって脱がせる）。</p> <p>2. 部分介助（頭を入れる時、最後にひっぱる時に手伝う）。</p> <p>3. 言語指示（ことばかけだけでやらせる）。</p>
16	<p>ひとりで衣類を脱ぐ(上半身)(4)</p> <p>(20~23)</p>	<p>1. 衣類をひとりで脱ぐように励ます。</p> <p>2. 脱ぐのが困難な服（首のまわりがさゅうくつな服、ボタンのついた服など）は、部分的に介助してあげてもよい。</p>
17	<p>簡単な衣類を着る(帽子、靴下など)(1)</p> <p>(21~24)</p>	<p>1. 少し大きめの帽子、靴下などを用いる。</p> <p>2. 着衣の仕方を鏡の前で子どもに示し、子どもにも試みさせる。</p> <p>3. 必ず傍にいて、子どもの着衣行動を見てやり、ほめることを忘れないようにする。</p> <p><援助の方法></p> <p>1. 母親が子どもの手をとって介助し、最後の段階だけ子どもにさせる。</p> <p>2. 着衣過程の前半だけ手伝う。</p> <p>3. 介助なし。</p>
18	<p>簡単な衣類を着る(セーター、シャツなど)(2)</p> <p>(27~32)</p>	<p>1. 少し大きめの衣類を用いる。</p> <p>2. 3. 着脱シート番号17と同一。</p> <p>4. ボタンやスナップなどは母親が手伝う。</p> <p><援助の方法></p> <p>1. 2. 着脱シート番号7と同一。</p>

		3. 介助なし（ぴったりの衣類で行い、着衣を定着させる）。
19	大きなボタン、スナップ をはずす(1) (32~35)	1. 床に洋服を広げ、ボタンやスナップのはずし方を示し、子どもにやってみるように励ます。 2. 動物の顔を描いたボタンでシートを作り、遊びながら練習させる。 <援助の方法> 1. 子どもの手をとって教える。 2. 3. 介助なし。
20	大きなボタン、スナップ をはずす(2) (32~35)	1. 身につけている衣類のボタンをはずすようにさせる。傍に母親が坐り、ゆっくりやり方を見せてやってから、一緒にやるように励ます。 2. ボタンやスナップをひとりではずして、衣類を脱ぐようにさせる。 <援助の方法> 着脱シート番号19と同一。
21	ひもをほどく (32~35)	1. 靴やケープのひもをはずし方を示し、子どもにまねさせる。 <援助の方法> 着脱シート番号19と同一。

排 泄

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	トイレット トレーニング スケジュール 表の作成 (18~21)	1. 約2週間、子どもが覚醒している時の排尿便、失尿便、また、食事や水分の摂り方、一日の活動を観察、記録して、排泄の時間帯を調べる。 2. 上記の調査をもとに、トイレットトレーニングスケジュール表を作成し、それに基づいて実施し、記録し、修正する。
2	便器、またはおまるに坐る (21~24)	1. 飲み物の摂取量を多くする。排泄シート番号1のスケジュール表に従って、「○○ちゃん、お便所(おまる)に行こう。」と言って 子どもを連れて行き、ズボンとパンツを下げてやる。 2. 「○○ちゃん、坐りなさい。」と言って、便器(おまる)に坐らせる。 3. 少しでも坐れたらほめてやり、次第に坐る時間を長くしていく。 4. この時、おしめをはずしてパンツにし、ズボンもトレーニングパンツのようなゆったりしたものがよい。おまるは、底が広くて安定性があり、前につかまるところがあるものが良く、坐った感触が良いように保温パットを敷いてやる。声かけは、いつも同一のことばを使用し、ほめるのは、子どもが立ち上がるろうとする直前にする。 <援助の方法> 1. 後ろから、太ももの横を押さえて坐らせる。 2. 肩を軽く押して、坐らせる。 3. 介助なし。
3	便器、またはおまるで排泄する (24~27)	1. 排泄シート番号2と同様の手続きで便器(おまる)に坐らせ、排泄するように励ます。 2. 排泄できたらほめるが、できなくても叱らない。 3. 途中までパンツやズボンをあげてやり、その後、子どもがひっぱってあげるように励ます。 4. 白昼は飲み物の摂取量を多くし、寝る前は少なくする。
4	排泄の要求を意志表示する (24~31)	1. 顔の表情が変化したり、お尻をさわったりなど、何か排泄の徴候を示す行動を見つけた時、「おまるに行こう。」などの話かけをして、排泄場所に連れて行く。排泄したら、ほめる。 2. 少しでも、排泄の要求を自分から示そうとしたらほめてやり、「おまるに行こう。」と、排泄行動を強化する。

		<p><援助の方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 言葉かけをして、優しく子どもの背を押して、排泄場所へ連れて行く。 2. 言葉かけをして、一緒に行ってあげる。 3. 排泄を自分から知らせ、排泄場所へ行く。
5	<p>後始末を除いて、排泄行動がひとりできる [24~31]</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 最初は、子どもの排泄行動の全てを手伝うが、後始末だけ手伝うところまで、少しずつ介助を減らしていく（例えば、ズボンを途中まで下げてやり、後は子どもにさせる）。 2. 介助を除去するのに急がない。ひとりでできたらほめる。 <p><援助の方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全面介助。 2. 部分介助。 3. 介助なし。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



目的

精神発達遅滞児を対象にした0歳からの超早期療育の試みが、最近大きな注目を集めつつある。超早期療育には、医学・心理学など学際的アプローチによる体系的プログラムが不可欠であるが、その方法、内容とも未だ確立されていない。

また、超早期からの指導が非常に重要であることは経験的に述べられているが、実際にその効果を検討した研究は、安藤(1979)にみられる以外、ほとんど明らかにされていない。

本研究では、0歳からのダウン症乳幼児を対象にした超早期療育プログラムを試案し、次に、そのプログラム実施による効果を検討(中間報告)することを目的とする。